

# NEWS LETTER

No.



2007  
SEPTEMBER

# リウマチ

Newsletter of Japan College of Rheumatology



有限責任中間法人

日本リウマチ学会



非ステロイド性消炎・鎮痛剤 薬価基準収載

**モービック<sup>®</sup>**錠5mg・10mg

MOBIC<sup>®</sup> TABLETS 5mg・10mg (メロキシカム製剤)

創薬/指定医薬品

※効能・効果、用法・用量、禁忌および使用上の注意等については添付文書等をご参照ください。



販売元(資料請求先)

**第一三共株式会社**

〒1103-8426 東京都中央区日本橋本町3-5-1

第一製薬株式会社と三共株式会社は2007年4月1日より第一三共株式会社として新たにスタートしました。



Boehringer  
Ingelheim

製造販売元

日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社  
東京都千代田区豊奥町2丁目8番8号

0702

130X180

体外診断用医薬品

リウマチの新しい見方

マトリックスメタロプロテイナーゼ-3

**MMP-3**

関節滑膜の活動性把握に血清又は血漿MMP-3

血清又は血漿  
MMP-3

関節滑膜の増殖

X線写真

骨の破壊

リウマトイド因子  
抗ガラクトース欠型IgG抗体等

免疫学的異常

CRP、赤沈等

全身の炎症

健保適用

**パナクリア<sup>®</sup>MMP-3 「ラテックス」**

血清又は血漿中マトリックスメタロプロテイナーゼ-3測定用

販売元



**第一化学薬品株式会社**

〒1103-0027 東京都中央区日本橋三丁目13番5号

製造販売元



**第一ファインケミカル株式会社**



木村 友厚

(中)日本リウマチ学会  
情報化委員会 委員長

## (中)日本リウマチ学会情報化委員長から

ニュースレター第15号をお届けします。

さて、このたび澤井高志先生からバトンを受けて情報化委員会を担当することになりました。(中)日本リウマチ学会では、このニュースレターに加えて学会ホームページやメールマガジンなどで、会員各位に様々な情報を提供しています。情報化委員会では、これら3つの媒体を通じての情報発信を担当していますが、中でもニュースレターは、2003年度までの和文誌「リウマチ」の廃刊を受けて、「知識の啓発や学会員の交流など」を主たる目的とし、紙媒体を通じて会員の皆様へ情報を伝えてきました。

情報メディアの多様性が急速に増大する時代にあって、旧来の情報メディアである紙媒体での情報は、発信側での情報の「収集」、「見分け」、「整理・取捨選択」、「発信」が行われる以上、かなり一方的な形式です。このような一方向性のニュースレターが、あまりインタラクティブ(interactive)な媒体ではないことは事実です。さらには読者の元へ送られてくる他の多くの紙媒体に埋もれて、そのまま捨てられてしまうこともあるでしょう。しかし情報過多の中でウェブやメールのみでは情報が会員に届かない恐れもあり、ここにニュースレターの存在意義の1つがあると思っています。

もしニュースレターの内容全般に目を通される会員がおられるとすれば、本誌には総会・学術集会あるいは支部集会の案内や報告、研修会の開催、専門医などの資格更新、薬の情報など、メールマガジンでの配信と一部重複しながら、情報が提供されていることをご存知かと思います。この他に総説、トピックス、最新治療動向、学会参加の感想、研究室や施設紹介、コラム、支部だより、留学体験記など、少し気楽に読むことができるものも時に応じて掲載しています。このように、ニュースレターは紙面上での(中)日本リウマチ学会からのお知らせと、学会やリウマチ医療を取り巻く情報を提供することに努めています。しかしながら「情報誌」として見れば、必ずしも多くの読者(会員)を引きつけるものではありません。学会という公的な情報媒体である以上、やや無味乾燥な情報が中心となるからです。公的な情報はある人にとってはどうでもよいことでも、他の人にとっては極めて重要な情報のこともあり、そのバランスが難しいともいえます。しかし今後とも引き続き、単に情報量を増やすのではなく紙媒体としての内容を豊かにすべく、ニュースレター小委員会の天野委員長はじめとする委員の方々とともに進めて行きます。どうかよろしく願いいたします。

本誌はホームページ(HP)、メールマガジン、ニュースレターの三位一体の情報媒体の1つです。本誌のような紙媒体に対する会員からのリアクションは必ずしも大きいものではありません。しかしインタラクティブでない媒体であっても、会員からの意見やご批判、内容への提言は、本誌の情報と内容の充実のために必須です。会員の皆様からの御意見・ご要望を是非ともnl@ryumachi-jp.comまでお願いいたします。

# JCR 2008

第52回 日本リウマチ学会総会・学術集会／第17回 国際リウマチシンポジウム

会 期：2008年（平成20年）

4月20日（日）～23日（水）

会 場：ロイトン札幌、北海道厚生年金会館  
札幌市教育文化会館（札幌市）

会 長：小池隆夫

（北海道大学大学院医学研究科内科学講座・第二内科 教授）





第52回 日本リウマチ学会総会・学術集会  
第17回 国際リウマチシンポジウム  
会長 小池 隆夫

## 第52回日本リウマチ学会総会・学術集会を迎えるにあたって

21世紀になってから、文字通りリウマチ学は大展開を見せてまいりました。

リウマチ学会の歴史は、「関節リウマチとの壮絶な戦いの歴史」でもありました。50年前の関節リウマチの治療は、副腎皮質ステロイドと金製剤、それにアスピリンとほんの少しのNSAIDsだけでした。私自身がリウマチ・膠原病の患者さんの診療を始めた1972年の時点でも、関節リウマチ治療の状況はそれ以前とは大きく変わりなく、外来がとても辛く、「リウマチを治している」という実感からは程遠いものでした。それが生物学的製剤の登場により、寛解や治癒すらも望めるような時代になりました。関節リウマチのみならず、その他のリウマチ・膠原病の治療にも、さまざまなオプションが生まれてきて、「リウマチ治療新時代の到来」とでも言うべき状況になってまいりました。

リウマチ研究も同様です。これまでは「基礎研究をいかに臨床応用するか？」すなわち「from bench to bedside」が大命題でしたが、TNF $\alpha$ 阻害薬に代表されるように、臨床現場での事実からリウマチの病態を解明する、すなわち「from bedside to bench」とでも言うべき事柄がずいぶん生まれてまいりました。勿論、関節リウマチに代表される多くのリウマチ疾患の原因は未だ不明ですが、確実に「今リウマチ学は面白い時代に入ってきた」と言えると思います。

2008年に開催いたします札幌での第52回のリウマチ学会が、実り多い集いとなりますことを念じつつ、会員の皆様のご来札を心からお待ち申し上げております。

有限責任中間法人  
**日本リウマチ学会**

JCR2008

<http://www.jcr2008.com/>

## ■会 期

2008年4月20日(日)～23日(水)

## ■会 場

【ロイトン札幌】

〒060-0001 札幌市中央区北1条西11丁目 TEL011-271-2711 URL <http://www.daiwaresort.co.jp/royton/>

【北海道厚生年金会館】

〒060-0001 札幌市中央区北1条西12丁目 TEL011-231-9551 URL [http://www.kjpcr.jp/hp\\_17/](http://www.kjpcr.jp/hp_17/)

【札幌市教育文化会館】

〒060-0001 札幌市中央区北1条西13丁目 TEL011-271-5821 URL <http://www.kyobun.org/>

## ■会 長

小池 隆夫 北海道大学大学院医学研究科内科学講座・第二内科 教授

## ■学術集会事務局 (連絡先)

北海道大学大学院医学研究科内科学講座・第二内科 事務局長 瀧美 達也

〒060-8638 北海道札幌市北区北15条西7丁目北海道大学医学部東南棟3階医局

TEL: 011-706-5915 FAX: 011-706-7710 E-mail: [at3tat@med.hokudai.ac.jp](mailto:at3tat@med.hokudai.ac.jp)

## ■運営準備室

札幌コンベンションサービス株式会社 担当: 吉良山

〒063-0861 北海道札幌市西区八軒1条東1丁目5-13-803

TEL: 011-738-5528 FAX: 011-738-3504 E-mail: [kdayama@scs-co.jp](mailto:kdayama@scs-co.jp)

## ■主な開催日程 (予定)

4月20日(日) 8:30-16:30 Annual Course Lecture  
 10:00-12:30 市民公開講座  
 16:30-18:30 評議員会  
 4月21日(月) 9:30-11:50 社員総会・学会賞受賞式・受賞者講演  
 12:00-18:00 第52回(中)日本リウマチ学会総会・学術集会  
 18:00-20:00 イブニングセミナー  
 4月22日(火) 8:00-18:00 第52回(中)日本リウマチ学会総会・学術集会  
 18:00-20:00 イブニングセミナー  
 4月23日(水) 8:00-17:00 第52回(中)日本リウマチ学会総会・学術集会

## ■参加登録費 (予定)

学会参加費 15,000円(事前登録)/17,000円(当日受付)

アニュアルコースレクチャー 5,000円

会員懇親会 3,000円

## ■演題募集要項

- ・募集演題:ワークショップ(一般演題)
  - ・応募方法:オンライン演題登録
  - ・ホームページ:<http://www.jcr2008.com>
  - ・募集期間:2007年9月27日(木)～11月29日(木)
- ※締切日の延長はありません。

## ■プログラム委員会メンバー

委員長 宮坂 信之(東京医科歯科大学大学院膠原病・リウマチ内科学)  
 副委員長 三浪 明男(北海道大学大学院医学研究科 整形外科分科)  
 副委員長 田中 良哉(産業医科大学医学部第一内科学講座)  
 委員 岩本 幸英(九州大学大学院整形外科学)  
 委員 尾崎 承一(聖マリアンナ医科大学リウマチ・膠原病・アレルギー内科)  
 委員 木村 友厚(富山大学医学部整形外科学)  
 委員 鈴木 康夫(東海大学 血液・腫瘍・リウマチ内科)  
 委員 武井 修治(鹿児島大学小児科)  
 委員 豊島 良太(鳥取大学医学部整形外科)  
 委員 中村 耕三(東京大学整形外科)  
 委員 三村 俊英(埼玉医科大学リウマチ膠原病科)  
 委員 山村 昌弘(愛知医科大学リウマチ科)



# (中)日本リウマチ学会 委員会一覧

## (中)日本リウマチ学会 委員会一覧

(2007年度・順不同)

### 総務委員会

委員長  
山本 一彦  
(東京大学大学院)



副委員長 竹内 勤 (埼玉医科大学総合医療センター)  
委員 石黒 直樹 (名古屋大学大学院)  
木村 友厚 (富山大学)  
田中 良哉 (産業医科大学)  
豊島 良太 (鳥取大学)  
三森 経世 (京都大学大学院)  
川合 異一 (東邦大学医療センター大森病院)  
森沢 俊一 (神戸大学大学院)  
高崎 芳成 (順天堂大学)  
山中 寿 (東京女子医科大学附属膠原病リウマチ病風センター)  
横田 俊平 (横浜市立大学)

### MR編集委員会

委員長  
三森 経世  
(京都大学大学院)



副委員長 住田 孝之 (筑波大学大学院)  
委員 石ヶ坪良明 (横浜市立大学大学院)  
錦田 弘美 (埼玉医科大学)  
金井 芳之 (さくらび会福祉村老人保健施設)  
木村 友厚 (富山大学)  
深井 高志 (岩手医科大学)  
高野 憲二 (群馬大学)  
田中 栄 (東京大学)  
田中 良哉 (産業医科大学)  
中村 孝志 (京都大学大学院)  
山中 寿 (東京女子医科大学附属膠原病リウマチ病風センター)  
山村 昌弘 (愛知医科大学)

### 医学用語委員会

委員長  
猪熊 茂子  
(都立駒込病院)



副委員長 武井 修治 (鹿児島大学)  
委員 大島 久二 (独立行政法人国立医療機構東京医療センター)  
加藤 智啓 (聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター)  
谷 憲治 (徳島大学)  
松本 俊治 (順天堂大学)  
橋原 茂樹 (東京女子医科大学附属膠原病リウマチ病風センター)  
山口 晃弘 (文春会看護学院)

### 社会保険委員会

委員長  
村澤 章  
(新潟県立リウマチセンター)



副委員長 川合 異一 (東邦大学医療センター大森病院)  
副委員長 山本 謙吾 (東京医科大学)  
委員 内田 昭輝 (内田クリニック)  
大曾根康夫 (川崎市立川崎病院)  
越野 光洋 (横浜市立大学)  
千葉 純司 (東京女子医科大学東医療センター)  
越坂 茂 (越谷クリニック)

### 専門医制度委員会

委員長  
田中 良哉  
(産業医科大学)



副委員長 針谷 正洋 (東京医科歯科大学大学院)  
委員 石黒 直樹 (名古屋大学大学院)  
岩本 幸美 (九州大学大学院)  
醍醐 承一 (聖マリアンナ医科大学)  
竹内 勤 (埼玉医科大学総合医療センター)  
豊島 良太 (鳥取大学)  
浜西 千秋 (近畿大学)

### 専門医資格認定委員会

委員長  
石黒 直樹  
(名古屋大学大学院)



副委員長 川合 異一 (東邦大学医療センター大森病院)  
委員 川人 豊 (京都府立医科大学大学院)  
針谷 俊一 (神戸大学大学院)  
宗園 徳 (近畿大学医学部奈良病院)  
高崎 芳成 (順天堂大学)  
坪井 声示 (静岡厚生病院)  
宮原 寿明 (独立行政法人国立病院機構九州医療センター)

### 生涯教育委員会

委員長  
豊島 良太  
(鳥取大学)



副委員長 宗園 徳 (近畿大学医学部奈良病院)  
副委員長 奥田 俊成 (北里大学)  
委員 岡田 保典 (慶應義塾大学)  
住田 孝之 (筑波大学大学院)  
中村 明三 (東京大学大学院)  
古田 俊治 (徳田保健衛生大学)

## 教育施設認定委員会

委員長  
岩本 幸英  
(九州大学大学院)



- 副委員長 梶野 博史 (岡山大学大学院)  
委員 佐々木 毅 (NTT東日本東北病院)  
三波 明男 (北海道大学大学院)  
齋藤 知行 (横浜市立大学大学院)  
廣瀬 俊成 (北里大学)  
松本美富士 (徳田保健衛生大学)  
村澤 章 (新潟県立リウマチセンター)  
塩澤 俊一 (神戸大学)  
京岡 睦 (近畿大学医学部奈良病院)  
山本 晴康 (愛媛大学)  
西藤 正一 (近畿リウマチ・整形外科クリニック)  
穂田 孝昭 (久留米大学医療センター)

## 国際委員会

委員長  
竹内 勤  
(埼玉医科大学総合医療センター)



- 副委員長 横田 俊平 (横浜市立大学)  
委員 石黒 直樹 (名古屋大学大学院)  
木村 友厚 (岡山大学)  
久保 俊一 (京都府立医科大学)  
住田 孝之 (筑波大学大学院)  
山中 寿 (東京女子医科大学膠原病リウマチ病態センター)  
山本 一彦 (東京大学大学院)

### ▽APLAR小委員会

- 委員長 横田 俊平 (横浜市立大学)  
委員 南田 秀人 (埼玉医科大学総合医療センター)  
川口 諒司 (東京女子医科大学膠原病リウマチ病態センター)  
松本 功 (筑波大学大学院)  
三村 俊英 (埼玉医科大学)  
横田 清次 (自治医科大学)

## 情報化委員会

委員長  
木村 友厚  
(岡山大学)



- 副委員長 竹内 勤 (埼玉医科大学総合医療センター)  
委員 天野 宏一 (埼玉医科大学総合医療センター)  
久我 芳田 (小川赤十字病院)  
関 雅之 (日本大学)  
高林克己 (千葉大学医学部附属病院)  
坪井 紀興 (東京医科大学)  
中村 洋 (日本医科大学)  
針谷 正祥 (東京医科大学大学院)  
穂田 裕子 (東京女子医科大学膠原病リウマチ病態センター)  
横原 茂樹 (東京女子医科大学膠原病リウマチ病態センター)

### ▽ニュースレター小委員会

- 委員長 天野 宏一 (埼玉医科大学総合医療センター)  
副委員長 横原 茂樹 (東京女子医科大学膠原病リウマチ病態センター)  
委員 浅沼 ゆう (埼玉医科大学)  
内 雅 (大阪医科大学)  
三浦 錦史 (神戸大学)

## リウマチ疾患治療薬検討委員会

委員長  
宮坂 信之  
(東京医科歯科大学大学院)



- 副委員長 渡美 達也 (北海道大学大学院)  
委員 天野 宏一 (埼玉医科大学総合医療センター)  
川合 真一 (東京大学医務センター大森病院)  
小池 竜司 (東京医科歯科大学大学院)  
齋藤 和義 (産業医科大学)  
齋藤 知行 (横浜市立大学大学院)  
針谷 正祥 (東京医科歯科大学大学院)  
松原 司 (松原メイフラワー病院)  
山村 昌弘 (愛知医科大学)

## 調査・研究委員会

委員長  
小池 隆夫  
(北海道大学大学院)



### ▽レフルノミド副作用調査検討小委員会

- 委員長 築原 茂子 (都立駒込病院)  
委員 大塚 毅 (京塚医師会病院)  
佐伯 行彦 (独立行政法人国立病院機構大坂南医療センター)  
佐川 昭 (佐川昭リウマチクリニック)  
佐藤 健夫 (日本赤十字社医療センター)  
沢田 哲治 (東京大学)  
竹内 勤 (埼玉医科大学総合医療センター)  
武村 民子 (日本赤十字社医療センター)  
針谷 正祥 (東京医科歯科大学大学院)  
松田 剛正 (鹿児島赤十字病院)

### ▽小児リウマチ検討小委員会

- 委員長 横田 俊平 (横浜市立大学)  
委員 伊藤 保彦 (日本医科大学)  
今川 智之 (横浜市立大学)  
武井 修治 (鹿児島大学)  
富坂美奈子 (千葉大学大学院)  
徳川 敏 (東京女子医科大学膠原病リウマチ病態センター)  
村田 卓士 (大阪医科大学)  
森 雅亮 (横浜市立大学病院)

### ▽抗リウマチ薬市販後特別調査小委員会

- 委員長 小池 隆夫 (北海道大学大学院)  
委員 石黒 直樹 (名古屋大学大学院)  
井上 和彦 (東京女子医科大学東医療センター)  
築原 茂子 (都立駒込病院)  
竹内 勤 (埼玉医科大学総合医療センター)  
田中 良哉 (産業医科大学)  
針谷 正祥 (東京医科歯科大学大学院)  
山中 寿 (東京女子医科大学膠原病リウマチ病態センター)  
菅 清之助 (日本大学)

その他、火急を要するものは理事会で決定する。

## 各支部だより

(中)日本リウマチ学会九州・沖縄支部

九州大学大学院医学研究院  
整形外科学

岩本幸英

日本リウマチ学会九州・沖縄支部による九州リウマチ学術集会は年2回開催されております。毎回2つのテーマを主題として取り上げており、多くの場合外科系と内科系のテーマをそれぞれ一つずつ設けています。平成18年9月9日-10日に熊本にて開催されました第32回九州リウマチ学会では「新規抗リウマチ剤の使い方と副作用」と「新規抗リウマチ剤使用中の手術療法」が取り上げられました。生物学的製剤に代表される新規抗リウマチ剤の高い薬効や有用性は十分に認識されつつありますが、実地にて使用するにあたっての問題点や注意点を明確にして、より安全に、より効果的にこれらの薬剤を使っていけるような知識の啓蒙に努めて参りたいと思います。

一方、平成19年3月10日-11日に大分にて開催されました第33回九州リウマチ学会では、このような新規の治療の有効性を踏まえた上で、従来の抗リウマチ剤をどのように評価し、今後どのように処遇していくのかということをもう一度振り返って考える為に「従来のDMARDsの総括-生物学的製剤の適切な使用を考えるために-」という主題が組まれました。多くの症例をまとめた施設からのそれぞれの報告をみてみますと、多くの施設でメトトレキサートの使用率は全患者の半数程度であり、継続率も高いという報

告がなされました。やはり現在アンカードラッグとして最も信頼性が高い抗リウマチ剤であることが再認識されました。プシラミンやスルファサラジンも、ともに20%前後で使用されていることが多く、リウマチにおける実地診療においては依然として有力なツールであると認識されているようです。しかし一方で股関節、膝関節、足関節などの荷重関節における変化を平均2年観察すると関節破壊を抑制できなかった症例は、生物学的製剤は7.7%であったのに対して、メトトレキサートは15%ほどであったという報告もなされ、抗リウマチ剤の効果の限界や今後の問題点も浮き彫りにされました(図1)。またそれらの荷重関節に関して、生物学的製剤を用いた症例のうちX線上明らかな改善が認められた症例が3例認められ、注目に値すると思われ(図2)。

これらの様々な報告を見ますと、生物学的製剤と従来の抗リウマチ剤のどちらにおいても、薬効の限界や副作用の問題点がそれぞれあり、画一的な使用方法では難しいようです。今後もどのような症例にどの抗リウマチ剤を用いるか、どのような順番で用いるか、生物学的製剤へ移行するタイミングはどのように判断するか、肺・腎・肝などの臓器合併症がある場合はどうするかなど、実践的なテーマを投げかけ、議論を深めていく必要があると感じております。

### 結果 $\Delta$ total Larsen score

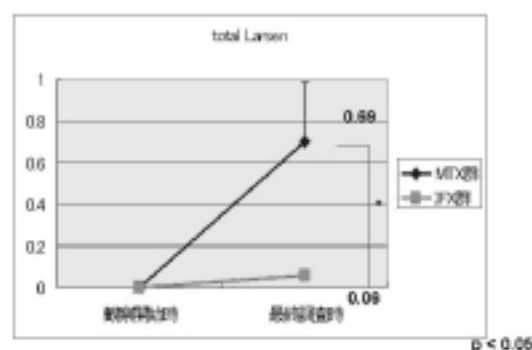


図1. 荷重関節におけるtotal Larsen scoreの変化

### 症例1 改善例

- ・ 56歳 女性 2005.12 infliximab開始  
DAS28 CRP 1.34 Good responder



図2. 足関節の関節破壊が改善した例



岸本 忠三

大阪大学大学院生命機能研究科  
免疫制御学講座 教授

## “失脚” “ということ”

江戸時代“藩”の重臣は馬で登城した。政変が起こって重臣の地位を追われると馬で登城出来なくなった。すなわち脚を失った。ここに失脚という言葉は由来すると云う。現在も政、官、財界のリーダーには運転手つきの車が用意されている。その地位をおりると車の送迎はなくなる。私も永年それに慣れていると車がなくなる不便が良く分かったと共に“失脚”という言葉がうまく云い得ていると感心する。

しかし最近失脚は文字通りの意味でもあることが分かってきた。永年車の送迎に慣れ、電車通勤をせずしかも意図して運動していないと脚はいわゆる“廃用性萎縮”に陥る。私は“失脚”してからこの1年せつせと散歩や水中ウォーキングに精を出し、“失脚”から少しずつ抜け出している。

“失脚”は自分ですぐ分かる。しかし頭の失脚、脳の“廃用性萎縮”は少しずつ進むと本人に実感されない。現場に直接かかわらなくなると脚の場合と同じく脳も“廃用性萎縮”を起こす。そういう人が科学や教育をはじめとしていろいろな分野でリーダーとして分かったような意見をいうことはこわいことだと思う。



**EULAR2007**

## EULAR2007印象記

横田 俊平  
横浜市立大学 小児科学講座

EULAR2007は、6月13日～16日にスペインのバルセロナにて開催されました。参加者は12,000名、参加国は100ヶ国に及び、EULARが年々成長していることを伺わせ、今年にはEULAR設立60周年にあたり、一段と力が入った準備が行われたものと思われました。

初日の午前中にplenary sessionが巨大なAuditoriumで行われ、Gregersen (Norway) のリウマチ学におけるgenetics、Sieper (Germany) によるspodyloarthropathiesを例にした画像診断と病理学と治療の合体を目指すリウマチ学、Symmons (UK) による疫学的重要性についての講演は、この学会の基調講演ともいべきでありました。

プログラムでとくに目立ったものは、やはり生物学的製剤が“花盛り”という状況であったこと、adipocytokineなど全身系の炎症調節に関わる新しいシステムの研究が進んでいること、線維筋痛症のセッションがACRに比較しても数多く設置されていたこと、などが挙げられると思います。

生物学的製剤については、欧州でのtocilizumabの治験報告に関心が集まっていたこと、安全性についての検討が一段と進んでいたこと、治療方法のさまざまなヴァリエーションの提示があったことなどが、目立っていました。

新生物学的製剤として小児のJIAに対するabatacept (Ruperto)、RAに対するtocilizumab (Smolen, 橋本)、RANKL inhibitorであるDenosumabのRAに対する効果 (van der Heijde)、RAに対するRituximabの長期効果・副作用(Dass) などが満員のauditoriumで発表されました。

生物学的製剤の安全性についてのセッションを傍聴しましたが、1) TNF阻害薬の副作用：感染症と悪性腫瘍についての大規模調査、2) 生物学的製剤の安全性について欧州での取り組み（政府機関、関連学会、製薬会社、患者団体とのコラボレーション）、3) TNF阻害薬治療中のHHV-1/3の再活性化について、4) TNF阻害薬治療中の手術について（TNF阻害薬の休業・再開時期についての比較）などが取り上げられていました。とくに感染症と悪性腫瘍について詳細な検討が行われており、また欧州における生物学的製剤の安全使用を目指した組織を樹立したとの報告は、わが国でも生物学的製剤の長期使用について検討する機関の必要性を示唆する重要な報告でした。ここでは学会、製薬会社、政府、患者組織が国を越えて連携し、組織化する取り組みについても紹介されました。わが国でも薬剤の安全性に関する取り組みはなされていますが、欧州では副作用事例は症例の蓄積が何よりも重要であることから、多数の国が連携することの重要性が強調されていました。

Adipokineについてのセッションでは、その研究が進んでいることを伺わせました。免疫学的なアプローチだけでなく、内分泌学的アプローチ、そしてリウマチ学からのアプローチが生まれ、全体としてadipokine研究がどの位置にあるかが一目瞭然に判る構成でした。全身を覆う脂肪組織の脂肪細胞が、局所においても全身系においても炎症・血糖調節などの役割を担っていることは当然といえばその通りで、わが国でも今後重点的に検討が必要な分野であろうと思



ました。

線維筋痛症は、すでに初日に約3時間にわたり欧州での医療の側の現状報告がなされました。わが国でも厚労省研究班が活発に活動していますが、報告は必ずしもこれまでの域を出るものではなく、リウマチ医、精神科医、生理学、心理学関係などが学際的に検討を進めているわが国の方がより臨床の現実に近い検討を行っていると感じられました。ただ、いま“痛みの科学”が生み出されようとしている現状にあるらしいことはこれらのセッションを通じて感じられたことです。人類にとって原初的な「症状」である“痛み”が、今後科学的に解明されるかも知れない、ということは考えるだけでも楽しいことでした。

この他にも、リウマチ学を覆うさまざまなセッションが行われていましたが、Auditoriumを含め15会場にも分かれており、とても全体を見渡すことはできませんでした。とくに整形外科系のセッションには参加しませんでしたので、別な報告が必要かもしれません。さて、EULAR 2007は、Registration feeがなんと950ユーロ（約15万円）、Antonio Gaudiの関わるParcs Guellで行われた懇親会の参加費は80ユーロ（約1万5千円）で、参加者自弁の学会でした。参加者が多額の費用を払っても参加するに値する学会であると考えていると理解できます。今後、日本リウマチ学会は参加費や懇親会費を受益者負担へもっていくのかどうか、大いに議論したいところです。



血清中の抗ガラクトース欠損IgG抗体測定用医薬品

[検体検査実施料収載]

日本標準商品分類番号 877449

# ピコルミ<sup>®</sup> CA・RF

体外診断用医薬品

承認番号 21100AMZ00670000

〈電気化学発光免疫測定法—ECLIA法〉



## RAの早期診断補助に

### 【特性】

- 1 早期RA患者において、従来のリウマトイド因子(RF)測定法に比較し、優れた陽性率です。
- 2 従来のRF測定法で陰性のセロネガティブRA患者でも陽性率が高く有用です。
- 3 RA患者の症状改善、悪化に伴い従来法に比べて測定値が有意に変動します。
- 4 ピコルミCA・RFは自動測定が可能であり、広い測定レンジ(1~500AU/mL)を短い時間(反応時間約20分)で測定できます。
- 5 ピコルミCA・RFはエイテストCA・RF(EIA法)と良く相関します。

※効能・効果、操作法、使用上の注意については添付文書をご参照下さい。

製造販売元  **三光純薬株式会社**  
東京都千代田区岩本町1-10-6

販売提携  **エーザイ株式会社**  
東京都文京区小石川4-6-10  
<http://www.eisai.co.jp>

## 海外留学体験記



### National Institutes of Health 留学記

2006年6月1日から1年間、米国Maryland州のNIH (National Institutes of Health)へ留学させていただきました。NIHは米国最大の生命科学研究施設であり、Bethesdaメインキャンパスには300エーカーという広大な敷地に数多くの研究室が属しています。私はNCI (National Cancer Institute) とNICHD (National Institute of Child Health and Human Development) の研究室で、主に骨代謝と免疫に関する基礎研究に携わることができました。

今回の留学で特に印象深かった二点について記したいと思います。一点は、子育てと仕事の両立がごく自然なこととされていることです。個人的なことではありますが、私は2歳の娘を連れて渡米したのですが、一般に子供の存在が日本よりも身近であるという感想を持ちました。長時間労働が一般的ではない(たいていの研究室は7時過ぎには空っぽになります)ため、家族で過ごす時間が長いことも理由の一つだと思います。意識の違いということから考えますと、日本では、少子化が問題となり、選挙の争点にもなっていますが、社会人として生活していて子供を見かける機会が減ってきており、普段の生活の中で子供と関わることさえほとんどないという人が多くなっているように思われます。アメリカでは、レストランやコンサートなど子供を連れて行ける場所も多く、新生児を連れて外出している家族連れも多く見かけました。

また、育児は女性のものというよりは両親で共同して行うものという考えが浸透していて、男性研究者でも積極的に子育てにかかわり、保育園(デイケア)の送迎なども自然に分担しているのが印象的でした。社会資源の点からも、デイケアは質のばらつきが大きく保育料が高いのが難点なのですが、数はたくさんあるので、保育料さえ払えば、どこにも入れ

▼著者(写真左)、NICHDのDr. Ozato(写真右)



石井 泰子 独立行政法人・国立病院機構  
大阪南医療センター アレルギー科

ないということはありません。私自身について言えば、子供の送迎のため時間的な制約ができてしまうのですが、NIH内の研究支援部門が充実していて雑用が少ない分、日中は仕事に集中できますし、時間的なハンディキャップを感じることはほとんどありませんでした。

もう一点感銘を受けたのは、NIHの研究者の層の厚さと、研究材料へのアクセスの良さです。キャンパス内に世界各地からさまざまな分野の研究者が集まっていますし、毎日大小様々なセミナーやlectureが開かれていますので、各分野の専門家に直接会ってdiscussionすることが可能です。また、所内のメーリングリストを通じて、「preliminaryな実験をしたいので、××遺伝子のノックアウトマウス(や△△のクローン)を分けて欲しい」というようなやりとりが活発に行われていて、人だけではなく研究資源の交流も盛んです。これは、NIHの最大の強みではないかと思います。

今後は、与えられた機会を通じて米国で吸収した技術・知識を、日本での研究活動に活用し、これからのリウマチ学の発展・新しい治療法の確立に向けて努力して行きたいと決意しております。今後ともなお一層のご指導・ご鞭撻をいただきますようよろしくお願い申し上げます。



## 2007年度JCR理事会報告

(中)日本リウマチ学会理事長 小池隆夫

2007年度第2回(中)日本リウマチ学会理事会を6月29日(金)に開催し、次の事項が審議・報告された。

## 1. 第51回学会総会・学術集会(横浜)の中間報告

第51回龍順之助会長から中間報告として、収支概算報告が行われ、これから会計士の監査を受け、次回の理事会には最終報告を行いたいと述べられた。

## 2. 第51回学会・学術集会及び第16回国際シンポジウムの評価報告

第51回学会・学術集会及び第16回国際シンポジウムの評価報告が、小池隆夫評価委員長より説明された。今回評価のあり方を少し変え、各シンポジウムの会場に紙ベースのアンケート用紙を配り、又、参加された方にウェブ上で評価を頂いた。個々についてはいろいろな意見があるので、それを纏めて報告できるような機会をつくりたいとして、概要の報告が行われた。

## 3. 第52回学会総会・学術集会(札幌)運営及び準備状況

第52回学術集会について小池隆夫会長から概要が説明された。期間は来年4月20日(日)～同23日(水)の4日間、第1日目にアニュアルコースレクチャー、午後理事会、引続き評議員会を計画する関係で、同日午前中に市民公開講座を設定していること、学会賞を栄誉あるものと位置づけ、多数の聴衆の前で発表して頂きたいこと、ポスター展示は8時から、イブニングセミナーは午後7時頃には終わることなど、開催地の特性を生かすアイデアで計画していることが報告された。

続いて竹内国際委員会委員長より第16回国際シンポジウム(横浜)について、予想を上回る参加があったこと、JCR奨学金受賞者とJCR国際委員会メンバーとの懇談会開催、JCR国際顧問会議開催などの結果概要が報告され、第17回国際シンポジウム(札幌)も第16回シンポジウムを踏襲した形で行うことが承認された。

## 4. 2007年度各委員会事業指針及び行動計画

理事長よりリウマチ学会として、最も重要な役割の一つが、この委員会活動であることが説明され、12の委員会を設定し、「総務委員会(山本一彦委員長)」、「リウマチ疾患治療薬検討委員会(宮坂信之委員長)」を新たに常設委員会として設置したことが報告された。

また、副理事長を2名とし、種々の委員会において特に重要な事項を審議(決定)するときには、理事長と副理事長がオブザーバーとして参加して、意見を述べさせていただくことにした。その後、各委員長より理事長からの委員会事業指針を受け、行動計画が示された。

## 5. 報告事項

厚生労働省から標榜科について再整理し、リウマチ科の標榜を含めた廃止案が新聞に発表されたのを受け、リウマチ学会としては、リウマチ科標榜撤廃に対する反対意見書をつくり、5月31日に柳澤厚生労働大臣に提出した。また、早々にリウマチ友の会、アレルギー学会、内科系学会、外科系学会も呼応して意見を提出すると共に記者会見する等反対意思表明が大々的に行われたことが報告された。

## 6. その他

1) 理事長より、第49回学会学術集会の件で、理事長及び担当弁護士名で事実の経過報告書、特別委員会報告書、調停書を合せて全会員に配布報告し、2年間種々迷惑をかけたが、今後、これをポジティブにフィードバックできるようにしたいとの報告があった。

2) 平成20年度診療報酬改訂の件で、「リウマチ因子と抗CCP抗体とMMP3」を同時使用しても適応外にならないようにする要望書を厚生労働省に提出したことが報告された。

3) 第3期理事の登記手続きが終了したことが報告された。

2007年6月1日～8月31日までに開催されたJCR理事会及び委員会は下記の通り

6月 8日	第148回学会誌MR編集委員会	8月 9日	第1回JCR専門医資格認定委員会
6月29日	第2回JCR理事会	8月14日	第14回JCR小児リウマチ小委員会
	第1回JCR国際委員会	8月22日	第1回JCR情報化委員会
	第1回JCR専門医制度委員会	8月31日	第3回JCR理事会
	第1回JCR生涯教育委員会		第2回JCR総務委員会
7月10日	第1回JCR国際委員会APLAR小委員会		第2回JCR国際委員会
7月12日	第1回JCR総務委員会		第1回JCR教育施設認定委員会
7月20日	第15回ニュースレター小委員会		第3回JCR専門医資格認定委員会

# 開業医からの視点

西岡 雄一

にしおか内科クリニックR.A. 院長

<http://www.myclinic.ne.jp/nicra/pc/index.html>

## 開業医の立場からJCRに感謝・期待すること

まだメソトレキセート製剤が使われるまえ関節リウマチの進行を抑制することは夢であった80年代半ばの東大の物療内科には沢山のリウマチ研究者が出入りしていました。聖マリアンナ医大の岡先生も現在北里の教授をされている広畑俊成先生の下に研究にこられておりました。大学にて水島裕教授のベシュライバー (Beschreiber) をしているときの経験を良く話してくれたのですが、『水島教授は、検査をする前から患者の病気がどういふものかわかり治療もすぐまるのだよね』と感銘していたのを記憶しています。個人的には私の叔父にあたる西岡久寿樹教授の外来を三重の診療所で一緒にさせていただくことがありそのときに同じ印象を診療から受けました(余談ですが教授は世界に誇るリウマチの研究を進める大学の教育者・学会の指導者でありながら同時に実家の診療所を管理、週に一度地域のリウマチ診療を三重の医療過疎のエリアにて10年以上つづけていることは、あまり教授は喧伝しませんが地域医療の面からも素晴らしいことです)。まず診察、症候を聞く。経過を即座に頭にまとめ(残念ながらカルテは判読不能なことが多いです)。検査をする前から診断の方向性がfocusされており、経過を迫った後から検査結果と照らし合わせながら私が確認するとやはり最初の久寿樹教授の診断どおり。また投薬にしても副作用の出そうなケースとそうでないケースを未然に察知することができるのではないかといいくらい適切に投薬をする。臨床にも研究にも秀でたりウマチ専門医の診療には先生方の経験と実績に基づく神技がありました。いいかえれば、医師のセンスが診療に生かされています。

山本一彦教授、山梨県立中央病院の加賀美年秀先生のご支援のもと開業3年。免疫研究の手段としてリウマチ疾患を診療する時代から、実際に免疫学を手段としてリウマチ疾患を診療する時代への変遷の10年間、基幹病院にてトレーニングしていましたが、その間に学会主導にてMTXの適正使用がきめ

られ安全な投与量がスタンダードとなり、抗CCP抗体も測定でき、MRIでの滑膜病変、CTでの感染症・間質性肺炎の評価、生物学的製剤も開業医にておこなえるようになりました(現在当クリニックでは生物学的製剤70名投与中)。学会・財団が中心となった啓蒙活動もあり早期リウマチのうちに受診される患者さんが増加、800名を超えるリウマチ患者さんと毎月向き合っています。学会における新しい治療に対する厳格な評価により私たち開業医もより安心して積極的治療に取り組む、環境を整えていただけていることを実感いたします。また山梨の片田舎にまで第一線の先生方が快く講演に来てくださることも素晴らしいことです。地方にて開業しますと適切な情報によらず独善的になってまいります。この独善的というものは、教授たちの神技、医師のセンスとまったく違った厄介な自己満足に過ぎません。確かに、ガイドライン準拠のみの医療では、診療の興味が薄れ、行き詰ってしまうことも事実です。リウマチ学、臨床研究の成果、そして診療が偏ることがない範囲で第一線の先生方の神技・医師のセンスあふれる情報もふくめて、今後も継続的に発信いただきたいと思います。そして、その活力がさらなるリウマチ学・リウマチ診療の底辺拡大になればと期待しています。



**開業医からの視点**

田中 眞希  
 田中まさ整形外科  
<http://www.mtoc.jp/>

**開業医、整形外科医としてのリウマチ**

私は、整形外科・リウマチ科・リハビリ科として、平成17年11月に東京の東日本橋の地に開業しました。まだまだ駆け出しですので、開業医からの視点というより、大学、勤務、開業という流れの中で学んだ点と言った方がよいかもしれません。

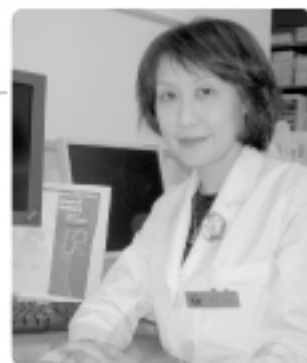
私の学生時代は、ピラミッド型治療、その後DMARDs、MTX、生物学的製剤へと、この10-20年でRA治療は目覚ましく発展してきました。そして、より有効な治療のキーとなっているのは早期発見といえます。

外来に出ていてRAを疑いX線を撮ってみたところ、典型的な手根骨の破壊が認められたことが、この2年足らずの間に3回ほどありました。Stage2,3にまで進行しているからには発症から数年は経っていると予測されます。ここに至るまで受診しなかった理由は、数年前の採血でのリウマチ因子が陰性だったので、あるいは、治らないと聞いているので判明するのが怖くて、などでした。早期発見と同時に、未治療のRAについて考えるようになったのは、開業してこのような

声を聞くようになったからであり、ぜひ話題にとり上げていただきたいと思います。

また、最近感じるのは、医学の基礎研究同様、日常診療でもglobalizationが進んできたことです。他国でRAと指摘されて治療は日本、あるいはその逆もあります。この場合、コミュニケーションの問題もさることながら、医療費への配慮を避けて通れません。APLARなどで、各国の診療事情を公開するディスカッションがあれば参考になりますし、他の地域のリウマチ学会からも注目されるのではないのでしょうか。

合併症、副作用などの点から薬物治療は内科が中心となります。整形外科医としては、手術療法と同時に、手術に携わった経験を生かして、靭帯の緩みが出現しているのではないか、関節面から骨髄への浸食はどうか、といった解剖学的視点を持ちながら、リウマチ治療に参加したいと考えております。



# 若手からの意見



今村 仁

東京女子医科大学附属  
膠原病リウマチ痛風センター整形外科

## ADLの向上を目指して

初期研修終了後、今年四月より整形外科医として勉強させてもらっています。私は整形外科、なかでもリウマチ関節外科を将来自分の専門としたいと考えております。リウマチに興味を持った最大の理由は、初期研修でたまたまリウマチの患者さんを受け持ったからです。回診のときにいつも私を引

き留めて話をしてくださる話し好きなおばあちゃんでした。

長年の関節リウマチのため手指は変形し四肢の関節の可動域制限もありました。いつも車椅子に乗せられており、回診のときもこちらを振り向くことができません。そんなおばあちゃんと長話をしていると、決まって机の上に置いてあるお菓子やくだものを手にとって私にくれようとしています。しかし肘がなかなか前に伸びず、手が届いても物がうまくつかめません。そんな患者さんを見てなんとかしてADLの向上を目指せないものかと考えたのがきっかけで、リウマチを外科的にアプローチできる整形外科を志しました。

現在のリウマチ診療は、抗リウマチ薬、生物学的製剤を始めとする内科的治療がメインです。そうした中でも現時点ではまだまだ外科的治療が適応となる場合が少なからずあることも事実です。将来的にはますます内科的治療が発達し手術症例が減ってくるかもしれません。

患者さんにとっては体にメスを入れずにすむことが最も喜ばしいことだと思いつつも、どんなに薬物治療が進んでも外科的治療が必要な患者さんがいらっしやることを思い日々勉強しなければならぬと感じている今日この頃です。



北野 将康

兵庫医科大学 リウマチ・膠原病科

## リウマチ膠原病の良医を目指して

兵庫医科大学リウマチ・膠原病科では佐野教授(写真前列右)のもと個々の方向性を発揮し一致団結して自己免疫疾患の病態に関する基礎的・臨床的研究を精力的に行っています。

私とリウマチ・膠原病との関わりは大学院での研究テーマ

であった「関節リウマチ病態でのスフィンゴ脂質の役割の解析」で、ある事象について基礎的な見地から深く追求したことは非常に有意義な経験でした。その後、臨床に場を移し現在に至るわけですが、全身疾患としてのリウマチ・膠原病に対する総合的なアプローチはまさに内科医としての醍醐味であると感じる一方、改めて診療の難しさを痛感し日々奮闘している次第です。

多彩な病態に対応するためには、最新の知見やEBMに精通することは勿論ですが、何よりこれまでの先人らの経験が非常に重要であることを肌で感じ取りました。近年、サイトカインや細胞間伝達の制御をターゲットに創薬が進み関節リウマチをはじめ自己免疫疾患に対するアプローチは新しい局面を向かえています。我々が研究しているスフィンゴ脂質を基にしたFTY720も新規免疫抑制剤として期待されており今後、新たな治療の選択肢になればと一層夢は膨らみます。

日進月歩であるリウマチ・膠原病学の研究に微力ながら貢献するとともに、目の前の個々の患者に満足してもらえ臨床医を目指したいと考えています。(写真前列左が著者)

# JCR2007全国中央教育研修会 東京大会 開催

2007年8月19日(日) 都市センターホテル

JCR2007

全国中央教育研修会  
東京大会

主催：有限責任中間法人日本リウマチ学会  
2007年8月19日

JCR2007全国中央教育研修会東京大会が8月19日(日)に都市センターホテルで開催された。中央教育研修会は、日々進歩しているリウマチ性疾患診療の知識修得と、リウマチ専門医の資格維持を目的として、各支部集会和併せて開催されるJCR地域教育研修会と同じく昨年度より開始されたJCR主催の教育研修会で、夏と冬にそれぞれ東京と大阪で開催される。今年で2年目を迎えた同大会は、第51回学術集会開催時のアニュアルコースレクチャーが中心となり、リウマチ性疾患の診断や治療に関して、それぞれの分野のエキスパートによるレクチャーが行われた。

当日は全国36都道府県から事前申込みがあり、大会執行機関であるJCR生涯教育委員会・豊島良太委員長の挨拶ではじまった大会は、7演題のプログラムで構成され、各講演後には質問が相次ぎ、活発な意見交換が行われるなど、参加者はハイレベルな講演に耳を傾けていた。

厳しい酷暑にもかかわらず多くの参加者を集めた東京大会は、廣畑俊成大会副委員長（JCR生涯教育委員会副委員長）

の閉会の挨拶で全プログラムを終え、次回は12月9日(日)に、大阪・梅田スカイビルで開催される（プログラム詳細は20ページ参照）。

尚、大阪大会参加申し込みは21ページの「JCR2007全国中央教育研修会 大阪大会への参加申込書」、または学会ホームページ (<http://www.ryumachi-jp.com>) から申込書をダウンロードの上、必要事項を記入し、E-mail、FAXまたは郵送で（中）日本リウマチ学会事務局宛に送付。

(送付先)

〒105-0001 東京都港区虎の門1-1-24  
第一オカモトヤビル9階  
(中)日本リウマチ学会 事務局  
電話 03-5251-5353  
FAX 03-5251-5354  
E-mail gakkalm@ryumachi-jp.com





# “A Promise for Life”

—Turning Science into Caring—

アボットジャパンは、  
1977年、関節リウマチに適応のある薬剤を上市以来、  
RA治療の研究開発に取り組んでいます。  
“患者さんにより良い生活を・・・”  
アボットジャパンの願いは、これからも続いていきます。



**アボット ジャパン株式会社**  
医薬品事業部本社 大阪市中央区城見2-2-53

 **Abbott**  
A Promise for Life

第52回 The 52nd Annual General Assembly and Scientific Meeting of Japan College of Rheumatology  
日本リウマチ学会総会・学術集会

第17回 国際リウマチシンポジウム  
The 17th International Rheumatology Symposium

URL <http://www.jcr2008.com>



JCR 2008  
Sapporo

有限責任中間法人  
日本リウマチ学会

会長／小池 隆夫 [北海道大学大学院医学研究科  
内科学講座・第二内科 教授]

会 期

2008.4/20<sup>SUN</sup>～23<sup>WED</sup>

会 場

ロイトン札幌

札幌市中央区北1条西11丁目  
TEL (011) 271-2711

北海道厚生年金会館

札幌市中央区北1条西12丁目  
TEL (011) 231-9551

札幌市教育文化会館

札幌市中央区北1条西13丁目  
TEL (011) 271-5821

## JCR2007全国中央教育研修会

会の名称：JCR2007全国中央教育研修会  
主 催：有限責任中間法人 日本リウマチ学会（JCR）  
執行機関：JCR生涯教育委員会（豊島良太委員長）  
参加人数：500人（予定）  
演 者 名：田中良哉、龍順之助、佐々木 毅、近藤啓文、  
三森経世、宗圓 聰、山田治基（敬称略）  
参 加 料：5,000円  
単 位：7単位  
申 込 み：本号21ページ申込書または学会Webサイトよ

り申込書をダウンロードの上、必要事項を記入し、E-mail添付、FAXまたは郵送でJCR事務局宛に送付。

〒105-0001 東京都港区虎の門1-1-24  
第一オカモトヤビル9階  
(中)日本リウマチ学会 事務局  
TEL：03-5251-5353 FAX：03-5251-5354  
E-mail：gakkaim@ryumachi-jp.com

## 大阪大会

開催日：2007年12月9日（日）  
会 場：梅田スカイビル ステラホール 〒531-076 大阪市北区大淀中1-1  
TEL：06-6440-3901 FAX：06-6440-3876 <http://www.skybldg.co.jp/>

### ◇プログラム（予定）



① 9：00～10：00  
**RA～その内科的治療 up date～**  
演者  
田中 良哉  
（産業医科大学医学部第一内科学講座 教授）  
座長  
吉田 俊治  
（藤田保健衛生大学リウマチ感染症内科 教授）



② 10：00～11：00  
**関節リウマチの外科的治療～適応とタイミング～**  
演者  
龍 順之助  
（日本大学医学部整形外科 主任教授）  
座長  
中村 耕三  
（東京大学医学部整形外科 教授）



③ 11：00～12：00  
**全身性エリテマトーデス最近の進歩（診療領域を中心に）**  
演者  
佐々木 毅  
（NTT東日本東北病院 院長）  
座長  
高崎 芳成  
（順天堂大学医学部膠原病内科 教授）



④ 13：00～14：00  
**強皮症の治療の進歩**  
演者  
近藤 啓文  
（北里研究所メディカルセンター病院 院長）  
座長  
原 まさ子  
（東京女子医科大学膠原病リウマチ痛風センター 教授）



⑤ 14：00～15：00  
**全身性自己免疫疾患（膠原病）における難治性病態の診断と治療**  
演者  
三森 経世  
（京都大学大学院医学研究科内科学講座臨床免疫学 教授）  
座長  
竹内 勤  
（埼玉医科大学総合医療センターリウマチ・膠原病内科 教授）



⑥ 15：00～16：00  
**ステロイド性骨粗鬆症の治療ガイドライン**  
演者  
宗圓 聰  
（近畿大学医学部奈良病院整形外科リウマチ科 教授）  
座長  
鈴木 康夫  
（東海大学医学部内科学系リウマチ内科学 教授）



⑦ 16：00～17：00  
**変形性関節症の病態と治療の最前線**  
演者  
山田 治基  
（藤田保健衛生大学整形外科 教授）  
座長  
齋藤 知行  
（横浜市立大学整形外科 教授）

FAX 03-5251-5354

## JCR2007 全国中央教育研修会 大阪大会 参加申込書

会の名称：JCR2007全国中央教育研修会 大阪大会  
 開催日時：平成19年12月9日(日)  
 会場：梅田スカイビル・ステラホール  
 〒531-0076 大阪市北区大淀中1丁目1番  
 TEL：06-6440-3899 (代表)

受講料：5,000円  
 単 位：7  
 主 催：有限責任中間法人 日本リウマチ学会 (JCR)  
 執行機関：JCR生涯教育委員会 (豊島良太委員長)

2007年12月9日(日) 梅田スカイビルで開催されるJCR2007全国中央研修会大阪大会に参加申込みます。

お名前：  
\_\_\_\_\_勤務先：  
\_\_\_\_\_専門領域：  
\_\_\_\_\_ご自宅住所：  
\_\_\_\_\_ご自宅電話番号：  
\_\_\_\_\_ご自宅FAX番号：  
\_\_\_\_\_E-mail：  
\_\_\_\_\_ご意見・お問い合わせ：  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

<必要事項を記入の上、学会事務局までE-mail、FAXまたは郵送でお送り下さい>

申込み、その他お問合せ先

有限責任中間法人日本リウマチ学会 (JCR) 本部事務局  
 〒105-0001東京都港区虎ノ門1-1-24 第一オカモトヤビル9階  
 TEL：03-5251-5353 FAX：03-5251-5354  
 E-mail：gakkaim@ryumachi-jp.com

\*参加申込みは、先着500名で締め切ります。

\*参加の受付は、受講料(5,000円)の支払いを以って確定します。

\*参加申込み確定者には参加登録番号が記載された申込受付証を事前にお送り致しますので、当日必ずご持参ください。

\*参加受講料は申込書ご提出後、お早めに下記へお振込み下さい。

(振込先) 三菱東京UFJ銀行虎の門支店

普通口座 2754140

口座名 (中)日本リウマチ学会 <チュウ>ニホンリウマチガクカイ

\*申込受講料は、特段の理由がない限り、返金致しかねますのでご了承下さい。

\*研修単位の認定証明は、当日会場で受付いたします(7単位)。

(専門医手帳をお持ちの方はご持参下さい)

\*参加定員に余裕のある場合は当日参加も受け付けます。



キリトリ線

# JCR2007地域教育研修会／(中)日本リウマチ学会支部学術集会

## JCR2007地域教育研修会の開催案内

学会主催の教育研修会として、JCR支部学術集会との連動により地域教育研修会が開催されます。

申込方法氏名、勤務先名、勤務先住所及び電話番号を記入して、葉書、FAXまたはE-mailなどで各地域教育研修会事務局までお申送ください。

### 第2回JCR中国・四国地域教育研修会

開催日 2007年10月13日(土)  
時間 17:00～19:10  
会場 倉敷市芸文館  
〒710-0046 倉敷市中央1丁目18番1号  
TEL:086-434-0400

会長 川崎医科大学整形外科 教授  
三河義弘

単位 2

プログラム

1. 17:00～18:00

「関節リウマチによる足部・足関節の障害」  
愛媛大学大学院医学系研究科運動器学 教授  
山本晴康

2. 18:10～19:10

「変形性関節症の病態と治療のエビデンス」  
富山大学医学部整形外科学 教授  
木村友厚

連絡先 川崎医科大学整形外科  
〒701-0192 倉敷市松島577  
TEL:086-462-1111 FAX:086-462-1199  
E-mail:orthop@med.kawasaki-m.ac.jp

### 第2回JCR北海道・東北地域教育研修会

開催日 2007年11月24日(土)  
会場 エスポワールいわて  
〒020-0021 盛岡市中央通1丁目1-38  
TEL:019-623-6251

会長 北海道大学大学院医学研究科内科学講座・第二内科 教授  
小池隆夫

単位 1

プログラム

「下肢リウマチ性関節症の手術適応と展望」  
北海道大学大学院医学研究科人工関節・再生医学講座  
教授  
眞高任史  
連絡先 北海道大学大学院医学研究科内科学講座・第二内科  
瀧美達也  
〒060-8638 札幌市北区北15条西7丁目  
TEL:011-706-5915

### 第2回JCR関東地域教育研修会

開催日 2007年12月16日(日)  
会場 パシフィコ横浜  
〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1  
TEL:045-221-2155 (代表)

会長 横浜市立大学大学院医学研究科運動器病態学 教授  
齋藤知行

単位 2

プログラム

教育研修講演1  
「関節リウマチの上肢手術」  
新潟県立リウマチセンター リウマチ科  
石川 肇  
教育研修講演2  
「ループス腎炎：治療の進歩」  
群馬大学大学院医学系研究科生体統御内科学分野 教授  
野島美久  
連絡先 横浜市立大学大学院医学研究科運動器病態学  
担当：稲葉 裕  
〒236-0004神奈川県横浜市金沢区福浦3-9  
TEL:045-787-2800 FAX:045-781-7922

## JCR2007(中)日本リウマチ学会支部学術集会

### 第18回 中国・四国支部学術集会

開催日 2007年10月13日(土)  
会場 倉敷市芸文館  
〒710-0046 倉敷市中央1丁目18番1号  
TEL:086-434-0400

会長 川崎医科大学整形外科 教授  
三河義弘

演題募集 演題募集は終了いたしました。多数のご応募  
ありがとうございました。

主なプログラム

特別講演1 (11:20～12:20)

「TNF阻害療法の適性使用を考える～本邦での市販後  
全例調査結果から～」  
産業医科大学医学部第一内科学講座 教授  
田中良哉

ランチョンセミナー (12:30～13:30)  
「シェーグレン症候群の臨床」

倉敷成人病センターリウマチ膠原病センター学術顧問  
臨床教授  
宮脇昌二

特別講演2 (13:40～14:40)  
「生物学的製剤時代のステロイドと選択的COX-2阻害薬」  
愛知医科大学医学部リウマチ科 教授  
山村昌弘

ホームページ <http://www.t-inform.co.jp/chushi-07/>  
連絡先 川崎医科大学整形外科  
〒701-0192 岡山県倉敷市松島577  
TEL:086-462-1111 FAX:086-462-1199  
E-mail:orthop@med.kawasaki-m.ac.jp

### 第17回 北海道・東北支部学術集会

開催日 2007年11月23日(金)、24日(土)  
会場 エスポワールいわて  
〒020-0021 盛岡市中央通1丁目1-38

TEL: 019-623-6251  
 会長 岩手医科大学整形外科 教授  
 嶋村正  
 演題募集 演題募集は終了いたしました。多数のご応募  
 ありがとうございます。  
 主なプログラム  
 シンポジウム  
 1. 関節リウマチのトータルケアとしての連携  
 2. 新しい抗リウマチ薬のタイミング  
 -高い有用性を得るために-  
 ホームページ <http://cane.iwate-med.ac.jp/index.htm>  
 連絡先 岩手医科大学整形外科  
 〒020-8505 岩手県盛岡市内丸19-1  
 TEL: 019-651-5111 内線 (6405)

シンポジウム1  
 「リウマチ性疾患の診断法の進歩」

シンポジウム2  
 「リウマチ性発熱疾患のup-to-date」

パネルディスカッション1  
 「生物学的製剤使用時の外科手術」

パネルディスカッション2  
 「整形外科手術と感染」

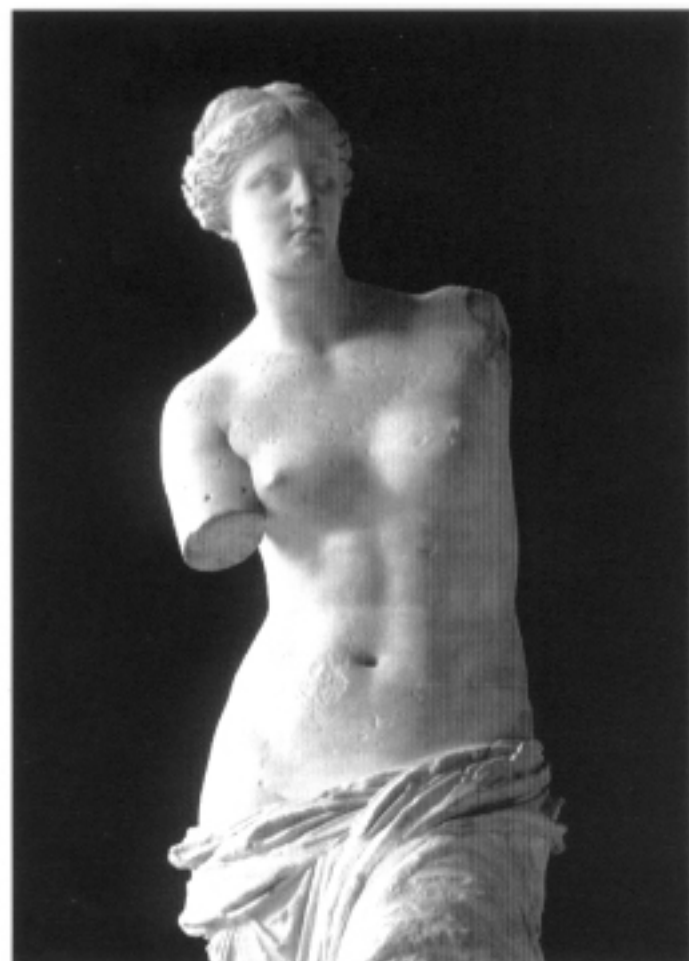
ホームページ <http://square.umin.ac.jp/kantojcr/>  
 連絡先 横浜市立大学大学院医学研究科運動器病態学  
 担当: 稲葉 裕  
 〒236-0004 神奈川県横浜市金沢区福浦3-9  
 TEL: 045-787-2800 FAX: 045-781-7922

**第18回 関東支部学術集会**

開催日 2007年12月16日(日)  
 会場 パシフィコ横浜  
 〒220-0012横浜市西区みなとみらい1-1-1  
 TEL: 045-221-2155 (代表)  
 会長 横浜市立大学大学院医学研究科運動器病態学 教授  
 齋藤知行  
 演題募集 インターネット(UMIN)によるオンライン登録にて受付  
 募集期間 平成19年8月15日(水)~10月3日(水)12:00まで  
 主なプログラム  
 特別講演  
 「IL-6阻害治療 -frombedsidetobench-」  
 大阪大学大学院生命機能研究科免疫制御学教授  
 西本憲弘

**第35回 九州・沖縄支部学術集会 (九州リウマチ学会)**

開催日 2008年3月15日(土),16日(日)  
 会場 沖縄コンベンションセンター  
 〒901-2224 沖縄県宜野湾市真志喜4-3-1  
 TEL: 098-898-3000  
 会長 豊見城中央病院内科  
 潮平芳樹  
 連絡先 〒901-0243 沖縄県豊見城市上田25  
 TEL: 098-850-3811



**持続性抗炎症・鎮痛剤  
 《ナブメトン錠》**

指定医薬品  
 **レリフェン®錠**  
 RELIFEN RELIFEN®400 薬価標準収載

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意に  
 つきましては添付文書をご参照ください。

製造販売元  
**株式会社 三和化学研究所**  
 SKK 本社: 名古屋市東区東海道35番地 〒461-8031  
 ●ホームページ <http://www.skk-net.com/>  
 後援 グラクソ・スミスクライン株式会社

資料請求先・問い合わせ先  
 コンタクトセンター  
**☎0120-19-8130**  
受付時間: 月～金 9:00～17:00(祝日除く)

# スカラーシップ受賞者印象記



Dr. Jie Qian  
(China)

### The Experience of the Participation to JCR 2007

The 51st Annual Scientific Meeting of the Japanese College of Rheumatology and the 16th International Rheumatology Symposium were held during April 26-28, 2007 at Pacifico Yokohama, Yokohama, Japan. Dr. Zhuoli Zhang, Xuan Zhang and I went to this Congress representing China. This wonderful trip was finalized due to the grants awarded by JCR. After accepting congress chair's invitation, I have had an excellent opportunity to renew old friendships and establish new contacts. My paper entitled "clinical characteristics in 115 Chinese patients with antiphospholipid syndrome and analysis of different classification criteria" was chosen to present at the congress.

Awardees attended the 16th International Rheumatology Symposium were from 14 countries around the world respectively, such as Australia, China, India, Korea, Switzerland, Norway, USA etc. This Symposium established a communication platform for overseas lectures and Japanese rheumatologists. The academic atmosphere was very friendly. The symposium also invited distinguished experts to discuss the cutting-edge development and the latest achievements in basic scientific research and clinical management. Professor Yehuda Shoenfeld led us to smell autoimmunity: SLE-CNS involvement. The results of his research on the anti-PR alluded to a novel mechanism to explain the induction of CNS-SLE depression. Prof. Takao Koike delivered a speech for the antiphospholipid antibodies and cell activation. They demonstrated the p38 MAPK signaling pathway plays an important role in aPL-induced TF expression on monocytes and suggested that the p38 MAPK may be a possible therapeutic target to modify a pro-thrombotic state in patients with APS. Prof. Steffen Gay presented his work on TNF inhibitors on cardio-vascular diseases. The results pointed to a critical role of activated cytokine-producing monocytes in the process of thrombus formation. Targeting these cells with anti-TNF $\alpha$  therapies has been proven to be beneficial in RA and future studies might be extended to evaluate the effect of this treatment in patients at risk for an acute coronary syndrome. Other well known experts around the world who attended the symposium included Prof. Marc C. Hochberg, Prof. Robert Kimberly, Prof. Frederick W. Miller, Prof. Thomas A Medsger Jr. and Prof. Joachim R. Kalden amongst them.

I enjoyed the atmosphere of Yokohama as a port city. Chinatown area engenders another exotic atmosphere in Yokohama living up to its boast of being one of the largest Chinatowns in the world. The Yokohama Bay Bridge reflects the modern character of the region, the night scenery was especially beautiful. We also experienced the awesome variety of the culinary traditions of Japan.

Prof. Junnosuke Ryu, congress president of the 51st annual general assembly & scientific meeting and Prof. Tsutomu Takeuchi, chair of the 16th international rheumatology symposium made extraordinary



arrangements and hospitality. I am very grateful for your invitation and endeavor to make my trip happy and memorable.

The paper selected to present on the congress was done during my study period. I would like to thank Prof. Shunle Chen, chair of the 8th international congress on SLE and my supervisor Prof. Chengde Yang, vice director of department of rheumatology for their help during my 3-year postgraduate study in Renji Hospital, Shanghai Jiaotong University School of Medicine.

My experience to Japan is unforgettable. I cannot find proper words to express my great appreciation to the JCR for giving me this opportunity.



Dr. Mohsen Soroosh  
(Iran)

### JCR Rheumatology—Yokohama

One of my biggest wishes in life was traveling to Japan. Fortunately it was available for me as scholarship. I was chosen to participating to the congress of Japan College of Rheumatology, scholarship sessions and JCR International Symposium in April, 2007.

My way to Yokohama was via Osaka and Tokyo. I invited to participate scholarship session in JCR congress at Pacifico Yokohama. My lecture's subject was "serum Osteocalcin level before and after treatment with Alendronate in postmenopausal women with osteoporosis".

I was the only rheumatologist from Iran in that congress. I found some friends around the world that also they had presentation in other branches of rheumatology.

It is very interesting for me that a congress such as JCR in a country has a big session for young researchers around the world with a generous travel and registration grant.

There were many halls and rooms in Pacifico Yokohama for congress. International symposium in morning and scholarship session in afternoon was in small auditorium. All presentations in both sessions were in English language.

I was the first speaker in second day. I saw some interesting presentation there. Especially there were many scientific talks in rheumatology-surgery in joints and RA. Also there were many presentations about pathophysiology of rheumatoid arthritis, SLE and other collagen vascular diseases and also their biologic treatment. In the third day I saw a brief review of new data in osteoarthritis including pathogenesis and its treatment.

Overall Yokohama congress of JCR was a very scientific and unforgettable experience for me.

Also I had experience of visiting very nice people with great cooperation therefore I never sense alone in Japan. I visiting Yokohama, Tokyo and Osaka and I found them very beautiful. Japan is a country with mixture of tradition and new technology.

I am looking for travel to Yokohama for APLAR 2008 again.

Best regards





Dr. Suparaporn Wangkaew  
(Thailand)

## The experience of the participation to JCR 2007

I appreciate a warm welcome from JCR 2007 committee. JCR 2007 provided me not only a good opportunity to present my study "pulmonary hypertension in Thai patients with systemic sclerosis" but also the chance to meet other investigators in foreign countries. Meeting with other researchers gave me an experience to learn their interesting studies, to gain more aspects of research and to get more friends.

Now, there are some improvements in Division of Rheumatology, Chiang Mai University in the field of scleroderma research project. We have a plan to study about pulmonary hypertension in patients with scleroderma together with cardiopulmonary Division. Moreover, I am going to study as postdoctoral research fellowship in Scleroderma program at Michigan University. Thus, these seem to be good news to improve our knowledge and treatment quality for scleroderma patients in our country. Thank you very much for this honorable scholarship, which is one of the important event that inspire me more interested in the field of scleroderma.



Dr. Amir Sawalha  
(USA)

## Pleasure participating

It was pleasure participating in the Japan College of Rheumatology JCR2007 meeting in Yokohama. The organizers of this 51st Annual Scientific Meeting and the 16th International Rheumatology Symposium need to be congratulated for such a well done effort to produce such an organized and informative rheumatology meeting.

It was delightfulness visiting Japan for the first time and spending time in that beautiful country. The kindness and hospitality of the JCR meeting organizers was overwhelming. This was in keeping with the impressive cultural depth that I felt

anywhere I went in Japan.

The meeting provided an excellent platform for both exchanging science and meeting leading scholars and experts from all over the world. I especially enjoyed the International Rheumatology Symposium which presented the very top experts on the various rheumatic problems from all over the globe. Indeed, the discussion in the Symposium covered the up-to-date advances in the management and knowledge of rheumatic and systemic autoimmune problems. In addition, the International Scholarship Awardees program was especially enjoyable. It provided a nice opportunity to know and socialize with eighteen young investigators in the field of rheumatology from fourteen different countries. I delivered two presentations in the meeting, the first entitled "Defective DNA methylation in CD4+ T cells is associated with loss of immune tolerance in the MRL/lpr lupus-prone mouse" and the second entitled "Genetic association of IL-21 polymorphisms with systemic lupus erythematosus". The JCR2007 organizing committee was very successful in their goals and efforts to make this part of the program fertile grounds for interaction amongst the international scholars and with scholars and top rheumatology experts from Japan.

Finally, I really enjoyed the opening ceremony performances, and needless to say the great taste of the Japanese cuisine! I certainly look forward for my next trip to Japan and participation in future JCR meetings.



関連学会総会・学術集会のお知らせ

国内

第35回日本臨床免疫学会総会

会期：2007年10月19日(金)～10月20日(土)

会場：ホテル阪急エキスポパーク

会長：大阪大学保健センター大学院医学系研究科・身体防御健康医学 教授

古崎和幸

ホームページ：

<http://www.med.csaaku.ac.jp/pub/imed3/jsci2007/index.htm>

第57回日本アレルギー学会秋季学術大会

会期：2007年11月1日(木)～11月3日(土)

会場：パシフィコ横浜・ヨコハマ グランド インターコンチネンタルホテル

会長：横浜市立大学大学院医学研究科環境免疫病態皮膚科学 教授 池澤善郎

ホームページ：<http://jsa57.umin.jp/>

第35回日本リウマチ・関節外科学会

会期：2007年11月9日(金)～11月10日(土)

会場：品川プリンスホテル (アネックスタワー)

会長：東邦大学医学部整形外科学 教授

勝呂 徹

ホームページ：<http://jsrjs35.umin.ne.jp/index.htm>

第37回日本免疫学会総会・学術集会

会期：2007年11月20日(火)～11月22日(木)

会場：新高輪プリンスホテル (東京)

会長：理化学研究所免疫・アレルギー科学総合研究センター 齊藤 隆

ホームページ：<http://wwwsoc.nil.ac.jp/jsi2/am-top.htm>

第22回日本臨床リウマチ学会

会期：2007年11月30日(金)～12月1日(土)

会場：かごしま県民交流センター

会長：鹿児島大学医学部保健学科 教授

武井修治

ホームページ：<http://www.cs-oto.com/cra22/>

海外

2007 American College of Rheumatology (ACR)

会期：2007年11月6日(火)～11日(日)

開催地：Boston, USA

ホームページ：<http://www.rheumatology.org>

2007 World Congress on Osteoarthritis

会期：2007年12月6日(木)～9日(日)

開催地：Miami Beach, Florida, USA

ホームページ：<http://www.oarsi.org/>

The 4th Pan Arab Osteoporosis Congress

(The 1st Emirates Osteoporosis Society Congress)

会期：2008年3月2日(日)～3月4日(火)

開催地：Crown Plaza Hotel, Dubai, UAE

ホームページ：

<http://www.iofbonehealth.org/download/osteofound/filemanager/mena/pdf/pacc-2008-dubai.pdf>

2nd International Conference on Osteoimmunology

会期：2008年6月8日(日)～13日(金)

開催地：Rhodes, Greece

ホームページ：

<http://www.aegeanconferences.org/2ndOsteoimmunology/index.asp>

6th International Congress on Autoimmunity

会期：2008年9月3日(水)～7日(日)

開催地：Porto, Portugal

ホームページ：<http://www.kenes.com/autoimmunity/>

2008 World Congress on Osteoarthritis

会期：2008年9月18日(木)～21日(日)

開催地：Rome, Italy

ホームページ：<http://www.oarsi.org/>

APLAR2008

13th Congress of the Asia Pacific League of Associations for Rheumatology

& MEDICAL-EXPO 2008 Congress in APLAR's World

会期：2008年9月23日(火)～27日(土)

開催地：パシフィコ横浜、日本

ホームページ：<http://www.aplar2008.com/>

<http://www.aplar.org/meetings.html>

14th International Congress of Immunology

会期：2010年8月22日(日)～27日(金)

開催地：神戸国際会議場、神戸国際展示場、神戸ポートピアホテル

ホームページ：<http://www.ici2010.org/>

## 指導医・専門医の認定更新に関するお知らせ

(中)日本リウマチ学会の指導医および専門医の認定有効期間は、それぞれ5年と定められております。本年度(2007年度)の認定更新についてお知らせいたします。

なお、更新時65歳以上の方は申請書の提出と更新料の納付のみで資格を更新できることになっております。

(2006年3月1日以降の第1回目の更新日までに満65歳に達する者については、その第1回目の更新については、資格維持申請書の提出及び更新料のみで専門医の資格を更新することができます)

1. 今回認定更新対象者の方は10月中に各人あて「資格維持申請書」をお送りします。
2. 申請書に必要事項を記入の上、更新費(指導医10,000円、専門医10,000円、指導医・専門医20,000円)を納入し12月末(必着)までに提出していただきます。
3. 専門医資格認定委員会、専門医制度委員会で審査の上、理事会の承認を得て、認定証・専門医手帳を3月中にお送りします。
4. 認定日は2008年3月1日といたします。
5. 今回の認定更新対象者は次の方々です。

(1)指導医・2002年度(2003年3月1日認定者および更新者)

専門医・2002年度( 同上 )

以上の方々は、全員です。

(2)専門医・2001年度(2002年3月1日認定)以前の認定者で2007年3月1日更新の申請で「保留」とされた方

(注記)

### \*専門医の資格更新について

[専門医の資格の維持及び更新]

(中)日本リウマチ学会専門医としての資格を維持するには、(中)日本リウマチ学会会員であり、専門医制度規則第6条第2項に示す有効期間の5年間に、総単位数として50単位以上を取得しなければならない。なお、認定を受けてから有効期間(5年)経過後も取得した単位数が所定の50単位に満たないときの取り扱いは次による。(付記)

1. 定更新の保留を申し出て、翌年度に再申請することができる。保留期間は1年とし保留期間中は専門医を呼称することはできない。(この間は「専門医」ではない。)保留期間の1年が経過した後も、なお50単位が取得できない場合は専門医の資格を喪失する。なお、資格喪失後、再度専門医になるためには、専門医資格認定試験を改めて受験し、合格しなければならない。
2. 海外留学または病気、出産等で単位の履修ができない特別な事情がある場合は、それを証明する書面を添えて認定更新の有効期間(5年)を留学等の期間だけ延長の申請をすることができる。(認められた場合は、この間は「専門医」である。)延長後の更新は、前号に準じて行う。

### \*更新終了後の専門医手帳の破棄について

認定更新の際に提出された専門医手帳は手続きを終了し、新規の手帳を送付しました後は学会事務局で保管いたしますが、保管期間は1ヵ年とし1年経過後破棄いたします。

なお、現在保管しておりますのは前回(2007年3月更新分)の手帳です。

ご必要の方は学会事務局までご連絡下さい。2008年3月末で破棄いたします。

(中)日本リウマチ学会  
専門医制度委員会  
専門医資格認定委員会

## ■リウマチ専門医名簿に関してのお知らせ

(中)日本リウマチ学会では「リウマチ専門医名簿」の作成を計画しています。

つきましては、後日専門医の先生に記載事項についてのアンケートを送付させていただきますので、ご協力をお願いいたします。

## 都道府県別会員数等一覧表

2007年8月15日現在

支部・都道府県	正会員					専門医区分別会員数		購読会員	県支部計	うち 海外在住	教育施設数
	通常	名誉	功労	評議員	合計	専門医	指導医				
北海道	287	0	0	24	311	138	26	2	313	2	16
青森県	46	0	1	7	54	16	4	0	54	0	3
岩手県	70	0	2	7	79	36	9	0	79	0	5
宮城県	90	0	3	15	108	48	13	0	108	0	6
秋田県	52	0	1	5	58	27	3	0	58	0	4
山形県	72	0	1	4	77	26	5	0	77	0	2
福島県	101	1	0	15	117	52	12	1	118	0	10
北海道・東北支部	718	1	8	77	804	343	72	3	807	2	46
茨城県	113	0	1	7	121	42	6	2	123	0	5
栃木県	104	0	4	9	117	45	5	2	119	2	2
群馬県	133	0	0	6	139	57	6	0	139	0	9
埼玉県	243	0	0	20	263	114	17	0	263	2	14
千葉県	266	1	3	23	293	146	21	0	293	4	12
東京都	1,156	11	27	156	1,350	538	145	55	1,405	15	46
神奈川県	539	2	12	61	614	265	65	6	620	9	32
関東支部	2,554	14	47	282	2,897	1,207	265	65	2,962	32	120
新潟県	76	1	0	14	91	44	14	0	91	2	4
富山県	92	0	1	6	99	35	8	1	100	0	4
石川県	104	0	0	8	112	36	6	0	112	0	3
福井県	76	0	1	3	80	30	1	0	80	0	5
山梨県	61	0	0	2	63	29	0	0	63	0	3
長野県	151	0	1	6	158	63	5	1	159	1	7
岐阜県	136	0	1	5	142	58	8	0	142	1	6
静岡県	184	0	1	19	204	99	16	0	204	0	19
愛知県	415	3	5	36	459	179	33	4	463	2	26
三重県	82	0	0	4	86	47	2	0	86	1	4
中部支部	1,377	4	10	103	1,494	620	93	6	1,500	7	81
滋賀県	75	0	1	7	83	33	6	0	83	1	1
京都府	218	2	1	19	240	81	12	1	241	0	8
大阪府	617	1	8	37	663	306	42	17	680	1	37
兵庫県	424	2	7	32	465	212	30	2	467	6	18
奈良県	96	0	1	6	103	43	5	0	103	0	3
和歌山県	48	0	0	4	52	22	3	0	52	0	1
近畿支部	1,478	5	18	105	1,606	697	98	20	1,626	8	68
鳥取県	47	0	1	4	52	21	5	0	52	0	3
島根県	39	1	0	4	44	17	4	0	44	0	4
岡山県	205	1	1	19	226	82	12	0	226	4	12
広島県	169	0	0	16	185	70	9	1	186	3	11
山口県	86	0	0	6	92	30	5	0	92	1	5
徳島県	76	0	0	7	83	22	4	0	83	3	2
香川県	75	0	0	11	86	40	8	0	86	1	5
愛媛県	113	0	1	16	130	60	15	0	130	0	4
高知県	75	0	0	7	82	23	4	0	82	0	4
中国・四国支部	885	2	3	90	980	365	66	1	981	12	50
福岡県	396	0	6	40	442	171	27	0	442	2	17
佐賀県	45	0	0	6	51	28	4	2	53	0	2
長崎県	105	1	0	13	119	49	8	0	119	0	9
熊本県	175	0	1	17	193	67	7	0	193	0	11
大分県	124	1	0	13	138	46	9	1	139	0	4
宮崎県	89	0	0	7	96	41	6	0	96	0	4
鹿児島県	110	0	0	11	121	52	6	0	121	2	2
沖縄県	47	0	0	5	52	22	1	0	52	0	2
九州・沖縄支部	1,091	2	7	112	1,212	476	68	3	1,215	4	51
外国	3	0	0	0	3	0	0	0	3	3	0
合計	8,106	28	93	769	8,996	3,708	662	98	9,094	69	416

## 2007年度(中)日本リウマチ学会「教育施設」:第19次認定施設

2007年度のリウマチ教育施設にはつぎの38施設が認定されました。認定期間は2007年9月1日から2010年8月31日です。

都道府県名	認定番号	施設名	都道府県名	認定番号	施設名
北海道	514	日鋼記念病院	京都府	533	医療法人社団洛和会洛和会音羽病院
青森県	515	五所川原市立西北中央病院	京都府	534	京都市立病院
宮城県	516	N T T 東日本東北病院	大阪府	535	医療法人温心会堺温心会病院
福島県	517	北福島医療センター	大阪府	536	医療法人寿楽会大野記念病院
茨城県	518	鹿島労災病院	大阪府	537	財団法人 住友病院
埼玉県	519	医療法人若葉会 若葉病院	大阪府	538	りんくう総合医療センター市立泉佐野病院
千葉県	520	社会保険 船橋中央病院	兵庫県	539	医療法人仁寿会 石川病院
東京都	521	医療法人社団松和会 池上総合病院	兵庫県	540	医療法人橋和会公文病院
東京都	522	社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会 超島病院	兵庫県	541	兵庫県立塚口病院
東京都	523	東京女子医科大学附属青山病院	和歌山県	542	独立行政法人国立病院機構南和歌山医療センター
東京都	524	一橋病院	広島県	543	広島クリニック観音
東京都	525	三井記念病院	山口県	544	総合病院社会保険徳山中央病院
富山県	526	高岡市民病院	徳島県	545	医療法人東洋病院
富山県	527	八尾総合病院	徳島県	546	三好市国民健康保険市立三野病院
石川県	528	石川勤労者医療協会 城北病院	香川県	547	香川県立中央病院
石川県	529	石川県立中央病院	福岡県	548	公立学校共済組合九州中央病院
愛知県	530	医療法人愛整会 北斗病院	福岡県	549	直方中央病院
京都府	531	医療法人同本病院(財団) 第二同本総合病院	福岡県	550	福岡県済生会八幡総合病院
京都府	532	医療法人電王会 小澤病院	沖縄県	551	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

## 2007年度(中)日本リウマチ学会「教育施設」:第16次資格更新施設

2007年度のリウマチ教育施設の更新はつぎの150施設が認定されました。認定期間は2007年9月1日から2010年8月31日です。

都道府県名	認定番号	施設名	都道府県名	認定番号	施設名
北海道	1	北海道大学病院	東京都	19	東京通信病院
北海道	217	札幌社会保険総合病院	東京都	20	東京都立府中病院
北海道	246	市立釧路総合病院	東京都	21	東京都老人医療センター
北海道	335	旭川医科大学附属病院	東京都	22	杏林大学医学部附属病院
北海道	398	KKR札幌医療センター斗南病院	東京都	23	東京都立大塚病院
岩手県	2	岩手医科大学医学部附属病院	東京都	25	日本大学医学部附属板橋病院
宮城県	4	東北厚生年金病院	東京都	156	日本大学医学部付属練馬光が丘病院
宮城県	5	独立行政法人労働者健康福祉機構東北労災病院	東京都	341	社会福祉法人白十字会東京白十字病院
福島県	6	公立大学法人福島県立医科大学医学部附属病院	東京都	403	東京大学医学部研究所附属病院
福島県	153	労働者健康福祉機構福島労災病院	東京都	404	東京都リハビリテーション病院
福島県	337	福島赤十字病院	栃木県	27	自治医科大学附属病院
東京都	7	医療法人社団慈誠会上板橋病院	栃木県	28	獨協医科大学病院
東京都	8	慶應義塾大学病院	千葉県	29	千葉大学医学部附属病院
東京都	9	独立行政法人国立病院機構東京医療センター	千葉県	249	独立行政法人国立病院機構下志津病院
東京都	10	独立行政法人国立病院機構村山医療センター	千葉県	406	独立行政法人国立病院機構千葉東病院
東京都	11	昭和大学病院	埼玉県	30	埼玉医科大学総合医療センター
東京都	12	順天堂大学医学部附属順天堂医院	埼玉県	31	埼玉医科大学附属病院
東京都	13	帝京大学医学部附属病院	埼玉県	32	防衛医科大学校病院
東京都	14	東京医科歯科大学医学部附属病院	埼玉県	339	埼玉社会保険病院
東京都	15	東京医科大学病院	埼玉県	400	埼玉県総合リハビリテーションセンター
東京都	16	東京女子医科大学東医療センター	埼玉県	401	自治医科大学附属大宮医療センター
東京都	17	東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター	茨城県	338	財団法人筑波誠仁会筑波学園病院
東京都	18	東京大学医学部附属病院	群馬県	247	医療法人社団日高会日高病院

都道府県名	認定番号	施設名	都道府県名	認定番号	施設名
神奈川県	33	厚木市立病院	大阪府	258	高槻赤十字病院
神奈川県	34	川崎市立川崎病院	大阪府	423	医療法人交詢医会大阪リハビリテーション病院
神奈川県	35	北里大学病院	大阪府	425	特定医療法人三和会永山病院
神奈川県	36	北里大学東病院	滋賀県	60	国立大学法人滋賀医科大学医学部附属病院
神奈川県	37	独立行政法人国立病院機構相模原病院	兵庫県	61	神戸大学医学部附属病院
神奈川県	39	聖マリア医科大学病院	兵庫県	62	財団法人南病院加古川病院
神奈川県	41	東海大学医学部付属病院	兵庫県	63	兵庫医科大学病院
神奈川県	42	横浜市立大学医学部附属病院	兵庫県	259	独立行政法人労働者健康福祉機構関西労災病院
神奈川県	252	横浜市立市民病院	兵庫県	260	三木市立三木市民病院
神奈川県	157	藤沢市民病院	兵庫県	261	神戸救済会病院
神奈川県	158	横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター	兵庫県	347	公立学校共済組合近畿中央病院
神奈川県	159	帝京大学医学部附属溝口病院	兵庫県	420	神戸市立中央市民病院
神奈川県	221	川崎市立井田病院	岡山県	64	医療法人和香会倉敷救済病院
神奈川県	342	横浜船員保険病院	岡山県	171	財団法人倉敷成人病センター
神奈川県	408	横須賀市立うわまち病院	岡山県	172	川崎医科大学附属病院
山梨県	43	山梨大学医学部附属病院	岡山県	263	医療法人同仁会金光病院
静岡県	44	市立伊東市民病院	広島県	264	広島市立広島市民病院
静岡県	45	JA静岡厚生連リハビリテーション中伊豆温泉病院	広島県	348	県立広島病院
静岡県	222	総合病院静岡厚生病院	広島県	349	公立学校共済組合中国中央病院
静岡県	414	県西部浜松医療センター	広島県	101	広島大学病院
静岡県	415	静岡県立総合病院	広島県	427	広島県厚生連JA広島総合病院
長野県	160	長野県厚生農業協同組合連合会長野松代総合病院	広島県	428	広島県立身体障害者リハビリテーションセンター医療センター
長野県	161	小諸厚生総合病院	島根県	66	島根大学医学部附属病院
長野県	343	信州大学医学部附属病院	鳥取県	67	鳥取大学医学部附属病院
長野県	410	医療法人抱生会丸の内病院リウマチセンター	鳥取県	262	社団法人鳥取県中部医師会立三朝温泉病院
富山県	166	富山赤十字病院	山口県	226	山口大学医学部附属病院
愛知県	46	愛知医科大学附属病院	山口県	265	宇部協立病院
愛知県	47	独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター	山口県	351	山口県立総合医療センター
愛知県	48	名古屋市立大学病院	香川県	173	香川大学医学部附属病院
愛知県	49	藤田保健衛生大学病院	愛媛県	68	愛媛大学医学部附属病院
愛知県	162	トヨタ記念病院	愛媛県	69	道後温泉病院リウマチセンター
愛知県	163	名古屋大学医学部附属病院	愛媛県	70	松山赤十字病院 リウマチセンター
愛知県	253	豊橋市民病院	高知県	227	高知大学医学部附属病院
愛知県	254	医療法人宝美会 総合青山病院	福岡県	175	独立行政法人労働者健康福祉機構九州労災病院
愛知県	344	名古屋共立病院	福岡県	176	産業医科大学病院
愛知県	416	医療法人豊田会刈谷豊田総合病院	福岡県	228	独立行政法人労働者健康福祉機構門司労災病院
愛知県	417	名古屋市立守山市民病院	福岡県	429	独立行政法人国立病院機構福岡病院
愛知県	418	半田市立半田病院	長崎県	178	佐世保中央病院
三重県	419	独立行政法人国立病院機構三重中央医療センター	長崎県	267	独立行政法人国立病院機構長崎医療センター
福井県	52	福井大学医学部附属病院	熊本県	179	熊本リハビリテーション病院
福井県	412	福井県済生会病院	熊本県	180	独立行政法人国立病院機構熊本医療センター
岐阜県	50	朝日大学附属村上記念病院	熊本県	353	熊本赤十字病院
岐阜県	413	社団医療法人かなめ会山内ホスピタル	熊本県	430	医療法人社団黎明会宇賀岳病院
京都府	53	京都大学医学部附属病院	熊本県	431	山鹿市立病院
京都府	54	京都府立医科大学附属病院	大分県	72	大分大学医学部附属病院
京都府	421	医療法人社団法人行徳会大原記念病院	大分県	73	九州大学病院別府先進医療センター
京都府	422	京都第一赤十字病院	大分県	181	大分赤十字病院
大阪府	57	関西医科大学附属病院滝井病院	宮崎県	74	宮崎大学医学部附属病院
大阪府	58	近畿大学医学部附属病院	宮崎県	268	宮崎県立宮崎病院
大阪府	59	独立行政法人国立病院機構大阪南医療センター	宮崎県	269	医療法人善仁会 市民の森病院
大阪府	167	淀川村小教病院	宮崎県	270	独立行政法人国立病院機構都城病院
大阪府	256	大阪府立急性期・総合医療センター	鹿児島県	182	鹿児島赤十字病院リウマチ膠原病センター

## インパクトファクター取得の施策として — MR論文一般公開のお知らせ —



Letter From Editor-In-Chief

編集委員会ではインパクトファクター取得の施策の一つとして、過去のMR掲載論文の一部を、学会ホームページで一般向けに無料公開することを決定いたしました。

現在のところ1年を期限として、MR17-1掲載全論文、及びMR16全号の掲載論文の中から7篇が学会ホームページに公開されています。

既にご案内のように、どれだけ新規論文にMR掲載論文が引用されるかが重要な課題であり、掲載論文を一般公開することは今後の論文引用率を高めるうえでも有効な施策と考えます。会員の皆様も、新たな論文執筆に際しては学会ホームページのMR掲載論文検索機能もご活用の上、MR論文を出来る限り引用していただけるようお願いいたします。

(MR編集委員会委員長 三森経世)

### 一般公開中の論文

JCRウェブサイト・MRページ <http://www.ryumachi-jp.com/publish/shoroku/modern.html>

※下記論文が「FULL TEXT (PDF)」で一般公開されています。

●MR16-1-2 ●MR16-2-1 ●MR16-3-7 ●MR16-4-1 ●MR16-5-1 ●MR16-5-2 ●MR16-6-1 ●MR17-1全編

## MR投稿出版規定一部改訂のお知らせ

2007年6月8日に開催されたMR編集委員会においてMR投稿出版規定の一部が改訂され、同日付で改訂版がJCR学会websiteに掲載されました(下線部分変更)。

### Prerequisites for publication

...

A copy of the certification form (PDF, Word) included in each issue to be submitted with the manuscript must be signed by all authors.

ウェブサイト：<http://www.ryumachi-jp.com/publish/kltel.html>

## 学会員専用ホームページのご案内

### ◇会員専用ページをご利用ください

有限責任中間法人日本リウマチ学会では学会ホームページ、メルマガを通じ、学会の情報をいち早く公開しております。さらに「会員専用ページ」ではニュースレター、メルマガのバックナンバーのほか、学会英文誌Modern Rheumatology (MR) の過去5年間に掲載された論文のフルテキスト(PDFファイル)がご覧いただけるほか、最新号も冊子として公開される前に電子ジャーナルとしてご覧いただけます。便利な検索機能も追加していますので、是非ご利用ください。

会員専用ページは入会いただければどなたでもご覧いただけます。

### ◇メールアドレスをご登録ください

メルマガの受信と「会員専用ページ」へのログインには、学会へのメールアドレス登録が必要です。

学会事務局(gakkaim@ryumachi-jp.com)までお持ちのメールアドレスをお知らせください。

### \*Yahoo、hotmailなどのフリーメールでご登録の会皆様へ

学会からのメールが「迷惑メールフォルダー」に振り分けられてしまう場合は、「迷惑メールフォルダーから除外(または迷惑メールではない)」の設定を行っていただくと、次回から正常に受信できます。新規にメールアドレスをご登録、または変更される場合、フリーメールアドレス以外での申請を推奨します。

### ◇会員専用ページへのパスワード登録とログインの手順

(1)すでにメールアドレスを登録されている方、学会に新規にメールアドレスを登録された方は、学会Webサイト右上の「会員

専用ページ」をクリックし、「ログインが初めての方は」に記述されている手順に従いパスワードの設定を行ってください。  
 (2) パスワード設定後、学会Webサイト右上の「会員専用ページ」をクリックし、学会に登録しているメールアドレスと、上記  
 (1)の手順で設定したパスワードを入力し、「ログイン」ボタンをクリックすると、「会員専用ページ」がご覧いただけます。  
 その他、ご不明な点がございましたら学会事務局までお問い合わせください。

メールアドレス登録送付先(問合せ): gakkaim@ryumachi-jp.com

詳細情報: <http://www.ryumachi-jp.com/question/Instruction/login.html>

\*登録時に入力される生年月日など会員の個人情報は、学会が安全管理に務め、第三者への提供や開示を一切せず、利用目的も  
 案内の範囲内に限定されています。

学会のプライバシー・ポリシー: <http://www.ryumachi-jp.com/privacy/index.html>

## JCRリウマチ専門医単位認定TV講演のお知らせ

JCRでは、インターネットTV講演を通じリウマチ専門医の単位申請を受付けております。  
 今回第3次JCRリウマチ専門医単位認定TV講演といたしまして、本年4月に開催された第51回(中)日本リウマチ学会総会・学術  
 集会より、JCR生涯教育委員会推薦の下記12演題を収録し公開しています。  
 JCRリウマチ専門医単位認定TVは会員の方はどなたでも視聴できますが単位取得は有料となります。(単位は受講料の支払済の  
 確認を以って付与されます)

### 第3次JCRリウマチ専門医単位認定TV講演



単位申請期間: 2007年7月20日~10月31日

単位取得費用: 1単位 3,000円

単位取得上限: 7単位 (専門医資格更新に必要な50単位中) または  
 5単位 (専門医申請に必要な30単位中)

単位申請方法: TV講演視聴後、Eメールにて視聴講演と単位数を申請

ホームページURL: <http://www.ryumachi-jp.com> (JCR学会員専用ページ)

JCR専門医制度委員会/JCR生涯教育委員会/JCR情報化委員会

### 第3次JCRリウマチ専門医単位認定TV講演一覧(予定)

	演 題	演 者
RTY07-1	「TKAに関する2,3の視座点 - MIS・TKAおよび大腸骨コンポーネントの目線 -」	松野 誠夫 (北海道大学名誉教授)
RTY07-2	「Etiopathogenesis of SLE: New insights from Experimental Models」	出井 章三 (Department of Pathology and Immunology, Faculty of Medicine, University of Geneva)
RTY07-3	「RA滑膜と骨髄に認められるナース様細胞 (nurse like cell) と病態形成機序について」	越前 隆弘 (行岡病院骨関節センター長)
RTY07-4	「リウマチ性疾患でのSAAの臨床的意義」	佐々木 敏 (N T T東日本東北病院 院長)
RTY07-5	「RA薬物治療: ISSUES & SOLUTION -ペインマネジメントのパラダイムシフト-」	竹内 勲 (埼玉医科大学総合医療センターリウマチ・膠原病内科 教授)
RTY07-6	「RAの痛みと関節破壊のメカニズム」	岩本 幸英 (九州大学大学院医学研究科整形外科 教授)
RTY07-7	「最新の膠原病治療」	小池 隆夫 (北海道大学大学院医学研究科内科学講座・第二内科 教授)
RTY07-8	「関節リウマチの早期診断による発症及び重症化予防」	江口 善美 (慶応大学大学院医歯薬総合研究科腫瘍免疫学講座(第一内科) 教授)
RTY07-9	「ステロイド性を含む骨粗鬆症に対する最新の治療方針」	宗岡 健 (近畿大学医学部奈良病院整形外科・リウマチ科 教授)
RTY07-10	「最新の膠原病合併肺高山庄症の診断と治療」	田中 住明 (北里大学医学部膠原病感病内科)
RTY07-11	「変形性関節症の遺伝子解析 - 疾病感受性遺伝子から分子病態へ -」	池川 志郎 (理化学研究所・遺伝子多型研究センター・変形性関節症関連遺伝子研究チーム)
RTY07-12	「リウマチによる顔性麻痺 - その病態と診断・治療・予後 -」	戸山 芳昭 (慶應義塾大学整形外科 教授)

※第1次、第2次JCRリウマチ専門医単位認定TV講演は下記ページより視聴できます。  
<https://www.ryumachi-jp.com/Secure/kaiin/tv/index.html> (会員専用ページ)  
 ※JCRリウマチ専門医単位認定TV講演に関するお問い合わせは、JCR事務局までお願いいたします。  
 TEL: 03-5251-5353 / FAX: 03-5251-5354 / E-mail: TV-JCR@ryumachi-jp.com

## 「リウマチ学用語集Web検索システム」運用開始のお知らせ

JCR医学用語委員会では、「リウマチ学用語集・改訂第4版」(日本リウマチ学会医学用語委員会編集・2007年4月27日改訂)の内容に基づき、オンライン上でリウマチ学用語の検索が可能な「リウマチ学用語集Web検索システム」の運用を開始しました。今回の検索システムの特徴は欧和・和欧とも全角、半角、あるいは大文字、小文字、ひらがな、カタカナでも検索できるというもので、リウマチ関連用語及び略語約8千語を収載しています。

### リウマチ学用語集Web検索システム

#### ■検索方法

1. 検索したい語句(和語、欧語、略語)を入力して、「検索」ボタンをクリックしてください。
2. 「検索結果一覧」が表示されます。
3. 該当する検索語句をクリックします。
4. 「検索結果表示」が表示されます。
5. 検索結果表示では、欧語、和語、読み、備考が表示されます。

#### ■欧和及び略語検索

1. 英数字で検索します。
2. 複合語は、構成語1語でも検索できますが、検索結果が多数表示されることがあります。  
【例】syndromeを検索  
【検索結果】  
acquired immuno deficiency syndrome,  
acute febrile mucocutaneous lymph node syndrome,  
acute respiratory distress syndrome  
(以下略)
3. フランス語・ドイツ語等のアクセント記号、発音記号は無視して検索します。  
【例】a→a, ô→o, ü→u, á→a, â→a, ã→a, ç→c
4. 数字は、算用数字で検索します。  
【例】anti- $\text{Jo-1}$  antibody
5. 上付・下付数字は、上付・下付を無視して、数字のみを検索します。
6. イタリック体は正体で検索します。

#### ■和欧検索

1. ひらがな、カタカナ、漢字で検索します。
2. 一般的にカタカナで表記される外来語等は、カタカナで検索します。  
【例】アキレスけんえん又はアキレス腱炎で検索  
アメリカリウマチがっかい又はアメリカリウマチ学会で検索
3. 複合語は、構成語1語でも検索できますが、検索結果が多数表示されることがあります。

●<http://www.ryumachi-jp.com/ryumachi/yougo/search.aspx>

- 【例】こうたい→ANA (抗核抗体)、ANA (抗核抗体) 陰性ループス、寒冷抗体、キメラ抗体 (以下略)
4. 数字は、算用数字で検索します。  
【例】25-ヒドロキシビタミンD→25ひどろきしびたみんD
5. 上付・下付数字は、上付・下付を無視して検索します。
6. 「V」の読みは「う」行または「ば」行で検索します。  
【例】VAHS→う<sup>ゝ</sup>あーす、VCAM→う<sup>ゝ</sup>いかむ、  
vasopressin-resistant diabetes insipidus  
→ばそぶれっしんていこうせいにようほうしょう
7. アルファベットは、そのままアルファベットで検索します。  
【例】Ir遺伝子→Irいでんし

#### ■検索結果の見方

1. ( ) 内の語は、直前の語と置換可能であることを示します。
2. [ ] 内の語は、省略可能であることを示します。
3. 《 》内の語は、説明であることを示します。

■リウマチ学用語Web検索システムに関するご意見はJCR医学用語委員会までお寄せ下さい。  
term@ryumachi-jp.com

# Santen



## Together

### 抗リウマチ剤

薬価基準収載

創薬、指定医薬品、処方せん医薬品  
(注意一医師等の処方せんにより使用すること)

## メトレート錠2mg

Metolate<sup>®</sup> tablets 2mg

メトトレキサート錠

■(効能・効果)、(用法・用量)、(副作用、禁忌を含む使用上の注意)等については、添付文書をご参照下さい。

### 抗リウマチ剤

薬価基準収載

創薬、指定医薬品、処方せん医薬品  
(注意一医師等の処方せんにより使用すること)

## リマチル錠100mg

Rimatil<sup>®</sup> tablets 100mg

アミノミン100mg錠

創薬、指定医薬品、処方せん医薬品  
(注意一医師等の処方せんにより使用すること)

## リマチル錠50mg

Rimatil<sup>®</sup> tablets 50mg

アミノミン50mg錠

■(効能・効果)、(用法・用量)、(禁忌、併用禁忌を含む使用上の注意)等については、添付文書をご参照下さい。

創薬会社  
**S** 参天製薬株式会社  
大阪府東淀川区下馬場3-9-10  
受付時間: 月曜～金曜 9時～18時

### 抗リウマチ剤

薬価基準収載

指定医薬品、処方せん医薬品  
(注意一医師等の処方せんにより使用すること)

## アザルフィジンEN錠

Azulfidine<sup>®</sup> EN tablets

サラゾスルファピリジン600mg錠併用

指定医薬品、処方せん医薬品  
(注意一医師等の処方せんにより使用すること)

## アザルフィジンEN錠250mg

Azulfidine<sup>®</sup> EN tablets 250mg

サラゾスルファピリジン250mg錠併用

■(効能・効果)、(用法・用量)、(禁忌を含む使用上の注意)等については、添付文書をご参照下さい。

創薬会社  
**S** 参天製薬株式会社  
大阪府東淀川区下馬場3-9-10  
受付時間: 月曜～金曜 9時～18時

製造販売元  
**Pfizer** ファイザー株式会社  
東京都港区南青山6-22-7

●巻頭言	
(中)日本リウマチ学会情報化委員長から	木村 友厚…1
●JCR2008	2~4
第52回 日本リウマチ学会総会・学術集会	
第17回 国際リウマチシンポジウム	
第52回日本リウマチ学会学術集会を迎えるにあたって／第52回日本リウマチ学会学術集会のお知らせ	
●(中)日本リウマチ学会 委員会一覧	6~7
●各支部だより (中)日本リウマチ学会 九州・沖縄支部	8
●コラム	岸本 忠三…9
●EULAR2007印象記	横田 俊平…10
●海外留学体験記	石井 泰子…12
●2007年度JCR理事会報告	小池 隆夫…13
●開業医からの視点	西岡 雄一／田中 眞希…14~15
●若手からの意見	今村 仁／北野 莉康…16
●JCR2007全国中央教育研修会	17・20~21
JCR2007全国中央教育研修会 東京大会、大阪大会	
JCR2007全国中央教育研修会 大阪大会 参加申込書	
●JCR2007地域教育研修会／(中)日本リウマチ学会支部学術集会	22~23
JCR2007地域教育研修会の開催案内／JCR2007(中)日本リウマチ学会支部学術集会	
●スカラーシップ受賞者印象記	24~26
Jie Qian/Mohsen Soroosh/Suparaporn Wangkaew/Amr Sawalha	
●関連学会総会・学術集会のお知らせ	27
●INFORMATION	28~31
指導医・専門医の認定更新に関するお知らせ／リウマチ専門医名簿に関してのお知らせ／都道府県別会員数一覧表／2007年度(中)日本リウマチ学会「教育施設」：第19次認定施設／2007年度(中)日本リウマチ学会「教育施設」：第16次資格更新施設	
●MR、HP、TV講演、用語集のお知らせ	32~34
インパクトファクター取得の施策として／MR投稿出版規定一部改訂のお知らせ／学会員専用ホームページのご案内／JCRリウマチ専門医単位認定TV講演のお知らせ／「リウマチ学用語集Web検索システム」運用開始のお知らせ	
●目次・編集後記・奥付	36

★今年度から情報化委員会の委員長が木村友厚教授になったことにともない、ニュースレター(NL)委員会も、委員長は私が引き次ぐことになりましたが、メンバーを刷新しました。第1期の委員として2003年12月の第1号発刊から、今年6月号(14号)までNLの編集に関わって下さいました諏訪昭先生(東海大)、中島雅夫先生(女子医大)、田中真希先生(ご開業)には貴重なご意見を頂き、かつ楽しい雰囲気の仕事が共に行うことができましたことに深く感謝致します。本当にご苦労様でした。

今回NL15号からは、女子医大の桃原茂樹先生(副委員長)、神戸大の三浦晴史先生、大阪医大の武内徹先生、埼玉医大の浅沼ゆう先生の5名で担当させて頂きます。メンバーのみでなく、NLの内容についても新たに「開業医の視点から」「若手医師の声」という2つの企画を掲載することにしました。単なる事務連絡のみでは無味乾燥なものとなるため、読み物としても面白いものにして、より多くの学会員の皆様に親しんで頂けるものにと考えております。学会員の皆様の貴重なご意見を元に、よりよいNLにしていくよう委員全員で努力する所存です。今回の企画などにつきまして忌憚のないご意見をお待ちしておりますので、よろしくお願い申し上げます(天野宏一)。

★ここ数年、リウマチの分野の進歩は目覚ましいものがあり、情報の国際化がますます進むとともに、科別の垣根も低くなりお互いの情報を共有する必要が出てきています。若手の先生や開業されておられる先生方のご意見も取り入れながら最新の情報発信をしていきます(桃原茂樹)。

★今号のNEWS LETTERではマイナーチェンジをはかりましたが、お気づきになられたでしょうか。会員の皆様に必要な情報を提供するだけでなく、より親しまれる冊子にしたいと新委員一同で知恵を絞りました(浅沼ゆう)。

★最近、本屋でリーダーシップや問題解決などのビジネス書をよく見かける。読んでみると、医学の分野でもすぐに役立つツールやヒントが満載されていて驚かされた。脳の「失群」予防にもいい書になるかも…(武内 徹)。

★編集委員をするのは、ガリ版印刷で学級通信を作っていた、小学校以来のように思います。時代はすっかり変わりましたが、印刷物が持つ独特の温かみを活かした、紙面作りにお役に立てればと思います。2年間、どうぞよろしくお願い致します(三浦晴史)。

## ●ご意見をお聞かせください

Newsletter「リウマチ」では会員の皆様のご意見・ご要望を募集しております。下記メールアドレスまでお寄せください。

E-mail: nl@ryumachi-jp.com

●情報化委員会 担当理事：木村友厚  
ニュースレター小委員会 委員長：天野宏一／副委員長：桃原茂樹／委員：浅沼ゆう・武内徹・三浦晴史

ニュースレター 2007年・第15号 発行日2007年9月20日  
発行者 有限責任中間法人 日本リウマチ学会  
〒102-0001 東京都港区虎ノ門1-1-24 オカモトヤビル9F  
TEL: 03-5251-5353 FAX: 03-5251-5354  
E-mail: gakkaim@ryumachi-jp.com URL: http://www.ryumachi-jp.com  
デザイン・制作 クリエイトM2 〒101-0065 東京都千代田区西神田2-7-5  
TEL: 03-5215-6560 FAX: 03-5215-6560 E-mail: creat-m2@sea.plala.or.jp  
印刷社 山下印刷(有) 〒105-0003 東京都港区西新橋1-21-4  
TEL: 03-3591-1025 FAX: 03-3591-0846



完全ヒト型可溶性TNF $\alpha$ /LT $\alpha$ レセプター製剤 薬価基準収載

# エンブレル<sup>®</sup> 皮下注用25mg

ENBREL<sup>®</sup> 25mg for S.C. Injection エタネルセプト(遺伝子組換え)製剤

生物由来製品 創薬 指定医薬品 処方せん医薬品<sup>※</sup> 注)注意—医師等の処方せんにより使用すること

**注意** 効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

**Wyeth**

製造販売元  
**ワイズ株式会社**  
〒141-0032 東京都品川区大崎一丁目2番2号  
<http://www.wyeth.jp/>

販売  
**武田薬品工業株式会社**  
〒540-8945 大阪市中央区道頓町四丁目1番1号  
<http://www.takeda.co.jp/>



抗ヒトTNF $\alpha$ モノクローナル抗体製剤 薬価基準収載

**レミケード**点滴静注用100

REMICADE<sup>®</sup> for I.V. Infusion100

インフリキシマブ(遺伝子組換え)製剤

【性状】 【用法用量】 【禁忌】 【副作用】 【注意】 【薬物相互作用】 【妊婦・授乳中の方への注意】 【参考】

■ 効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む  
使用上の注意等については、添付文書を  
ご参照ください。



抗リウマチ剤 薬価基準収載

**メトトレキサート錠2mg**「メト」

METHOTREXATE Tablets 2mg

メトトレキサート製剤


【性状】 【用法用量】 【禁忌】 【副作用】 【注意】 【薬物相互作用】 【妊婦・授乳中の方への注意】



製造販売元(資料請求先)

**田辺製薬株式会社**

〒541-8505 大阪市中央区道徳町3丁目2番10号  
<http://www.tanabe.co.jp/>

2007年10月1日より田辺製薬と三菱ウェルファーマは  田辺三菱製薬 に